creative commons

COMMONS DEED

저작자표시-비영리-변경금지 2.0 대한민국

이용자는 아래의 조건을 따르는 경우에 한하여 자유롭게

- 이 저작물을 복제, 배포, 전송, 전시, 공연 및 방송할 수 있습니다.

다음과 같은 조건을 따라야 합니다:

저작자표시. 귀하는 원저작자를 표시하여야 합니다.

비영리. 귀하는 이 저작물을 영리 목적으로 이용할 수 없습니다.

변경금지. 귀하는 이 저작물을 개작, 변형 또는 가공할 수 없습니다.

- 귀하는, 이 저작물의 재이용이나 배포의 경우, 이 저작물에 적용된 이용허락조건을 명확하게 나타내어야 합니다.
- 저작권자로부터 별도의 허가를 받으면 이러한 조건들은 적용되지 않습니다.

저작권법에 따른 이용자의 권리는 위의 내용에 의하여 영향을 받지 않습니다.

이것은 이용허락규약(Legal Code)을 이해하기 쉽게 요약한 것입니다.

Disclaimer

dCollection

碩士學位論文

高等学校における日本語の学習意欲が低下する要因に関する一考察

濟州大學校 教育大學院

日語教育專攻

井上浩一

2011年　8月

高等学校における日本語の学習意欲が低下する要因に関する一考察

指導教授　金　成俸

井上浩一

이 論文을 教育学 碩士學位 論文으로 提出함

2011年 8月

井上浩一의 教育學 碩士學位 論文을 認准함

審査委員長 _____印

委　　員 _____印

委　　員 _____印

濟州大學校 教育大學院

2011年 8月

dCollection @ jeju

<한국어초록>

고등학교에 있어서의 일본어의 학습의욕이 저하하는 요인에 관한 일고찰

井上浩一

済州大学校　教育大学院 日語教育専攻

指導教授 金　成 俸

고등학교에서 일본어를 가르칠 때 학생들이 시간 경과와 함께 학습의욕이 저하한다는 것을 일본어를 가르친 적이 있는 교사라면 대부분 느끼고 있다.

이것을 규명하기 위해서 현재 본인이 일본어를 가르치고 있는 고등학교에서 요인을 고찰한 결과, 일본어의 학습의욕이 저하하는 요인은 대부분이 생각했던 대로 일본어는 대학교 입시과목과는 관계가 없기 때문이라는 것이 하나의 요인이었지만, 대학교 입시과목과 관계가 없기 때문에 학습의욕이 저하하는 것이 아니라 「대학교 입시과목 이외의 공부를 하는 것은 좋지 않다」 「입시 과목만 주력해서 열심히 해라」 「고등학생에게 입시 이외의 부담을 주는 것은 좋지 않다」라고 하는 분위기가 학교 현장이나 가정 안에서도 있는 것이 가장 큰 요인이라고 본다. 고등학교의 역할이 대학교에 가기 위한 학습과정이 되고 있지만, 입시과목에 지나치게 비중을 두고 있는 것은 입시학원과 다를 바 없는데도 불구하고 학교에서 일본어를 가르치고 있는 교사 자신도 그것에 동조하고 있기 때문에 당연히 학생의 학습의욕은 저하되어 간다.

영어나 수학 등 입시 과목의 경우는 외발적 동기부여에 의해 대학교 진학을 목표로 하는 학생의 학습의욕은 저하하는 것은 적지만 입시과목이 아닌 일본어의 경우는 학생의 동기부여를 높이도록 항상 교사는 노력을 하고 고등학교에서 왜 일본어를 공부하는 것인가? 입시과목 이외의 수업이 있는 것인가? 학생들이 말하는 질문에 대답할 필요도 있다. 「교과서가 어렵다」 「수업이 재미없다」등 교사가 연구

dCollection @ jeju

개선해야 하는 것도 있지만 그 전에 해야 할 것은 학생과 신뢰 관계의 구축이나 학생을 컨트롤할 수 있는 지도력을 갖추는 것이다.

또 학생이 느끼고 있는「시험이 어렵다」「열심히 해도 좋은 점수를 받을 수 없다」등의 요인에 대해서는 일본어 교육만 가지고 있는 문제가 아니라 고등학교의 교육 전체의 문제로서 생각할 필요가 있다.

dCollection @ jeju

目　　　次

한국어초록 ・・・ i

Ⅰ　はじめに ・・・ 1

Ⅱ　韓国の日本語教育の状況
2-1　世界の日本語教育現状から見る韓国の日本語教育 ・・・ 3
2-2　日本語学習の目的 ・・・ 4
2-2-1　韓国のある高校の生徒が日本語を勉強する理由、目的 ・・・ 5

Ⅲ　動機づけ
3-1　動機づけ ・・・ 7
3-2　外発的動機づけと内発的動機づけ ・・・ 7
3-2-1　外発的動機づけと内発的動機づけの関係 ・・・ 8
3-3　親和動機づけ ・・・ 10
3-4　回避動機づけ ・・・ 11
3-5　動機づけと学習意欲 ・・・ 12

Ⅳ　学習意欲が低下すると考えられる要因
4-1　大学入試との関係
4-1-1　教師側から見る学習意欲の低下の要因 ・・・ 14
4-1-2　日本の高等学校では人気が出ている第２外国語 ・・・ 14
4-1-3　履修する理由の違い ・・・ 16
4-1-4　クラブ活動と大学進学 ・・・ 17
4-2　生徒が口にする学習意欲の低下の要因
4-2-1　難しい教科書 ・・・ 18
4-2-2　成績がよくならない ・・・ 24
4-3　他の教育機関の調査から ・・・ 26

dCollection @ jeju

Ⅴ　教師の役割
5-1　学習意欲が低下していると思われる状態 · · · · · · · · · · · · · 30
5-2　学習意欲が低下していることに対する教師の行動 · · · · · · · · · 30
5-3　教師の力 · 33
5-4　教師の態度 · 36
5-5　学ぶ意欲を失わせる教師 · 37
5-6　教師との距離 · 38
5-7　教科の枠を超えた指導力 · 39

Ⅵ　おわりに · 41

参考文献 · 43
Abstract · 45

Collection @ jeju

Ⅰ　はじめに

済州で外国語指導助手[1)]として日本語を教え始めて7年目に入る。その間、継続して気になっていたことが高等学校における日本語の学習意欲の低下である。1学期のはじめの頃は学習意欲が感じられるが、週を重ねるごとに学習意欲の低下を感じてきた。今回は済州の高等学校の状況をとりあげ、生徒の学習意欲が低下する要因について考えてみる。

現教育課程において高等学校では日本語や中国語、スペイン語など第２外国語を選択科目として必修することになっている。その選択科目のひとつとして日本語があり、主に2年生で履修することが多い。日本語Ⅰの週単位の授業時間数は学校によって違うが、２時間から４時間である。

高校で日本語を担当している韓国人の教師によれば、生徒の日本語の学習意欲について、「一学期の初めのころは学習意欲が見られるが、二学期に入ると学習意欲が低下していき、さらに意欲低下に加速がかかると放棄する生徒も目立ってくるようなる」と同じ意見が多い。学習意欲が低下する時期については、一学期の中間考査が終わったころから二学期が始まったころと若干の幅はあるものの、大体の場合、二学期に入ると日本語の学習意欲が低下していくことは、予測できるそうである。

学習意欲と関係する動機づけについては、これまでに「動機づけを促すために外国人教師ができること」工藤多恵・楠木理香（2004）[2)]や「動機づけを高める３つの要因」廣森友人（2005）[3)]など、外国語教育でもいろいろな方面から研究が行われているが、それに比べて学習意欲の低下や動機づけの減退についての研究は少ない。また、少ない研究の中でもそれらの対象となる学習者は大学生が多く、その外国語を主専攻としている学生に対するものや英語教育に関するものであって、中等教育段階での選択科目である第２外国語の学習意欲の低下の研究となると極めて少ないのではないだろうか。それなら高等学校における日本語の学習意欲が低下する要因は、さほど

---

1) 韓国語では원어민보조교사

2)工藤多恵・楠木理香（2004）,「外国語学習に対する動機づけを促すために−外国語教師にできること− 」, 立命館高等教育研究第４号

3)廣森友人（2005）, 「外国語学習者の動機づけを高める３つの要因：全体傾向と個人差の観点から」, 大学英語教育学会紀要第41号

dCollection @ jeju

大きなテーマでないように思われるが、世界の日本語教育の現状から見ると、韓国の中等教育での日本語教育は高い割合を占めている。そして韓国の学習者の９０％以上が中等教育機関で学習していることを考えると、韓国の高等学校における日本語の学習意欲の低下は世界の日本語教育から見ても大きな問題であることがわかる。今回は、まず高校生が日本語を勉強する理由から動機づけに目を向け、学習意欲が低下する要因を教師側、学校側から見た場合と、生徒が思っている要因からも考察し、教師の役割を含め、今後の高等学校の日本語教育の発展につながればと考える。

dCollection @ jeju

Ⅱ　韓国の日本語教育の状況

2-1　世界の日本語教育現状から見る韓国の日本語教育

国際交流基金の『2009年海外日本語教育機関調査』によると[4]韓国の中等教育での日本語教育の割合は非常に高く、東アジアが半分以上を占め、国別では韓国、中国で約半分を占めている。表１は国別学習者数[5]である。1位の韓国が964,354人、２位の中国は827,171人で学習者で見ると大きい差がないように思われるが、人口で計算すると韓国では52人に１人に対し中国では1,900人に１人が日本語を学習していることになり、韓国人の日本語を学習する人の割合は非常に高いということになる。

また、学習者数上位３ヶ国の特徴として韓国、インドネシアでは中等教育機関の学習者が90％以上を占め、中国では高等教育機関が67％を占めている。世界の日本語教育現状を見ると韓国人学習者が人口に占める割合や人数も多く、その韓国人学習者のほとんどが中等教育機関で学習しているのである。

（表１：国別学習者数）

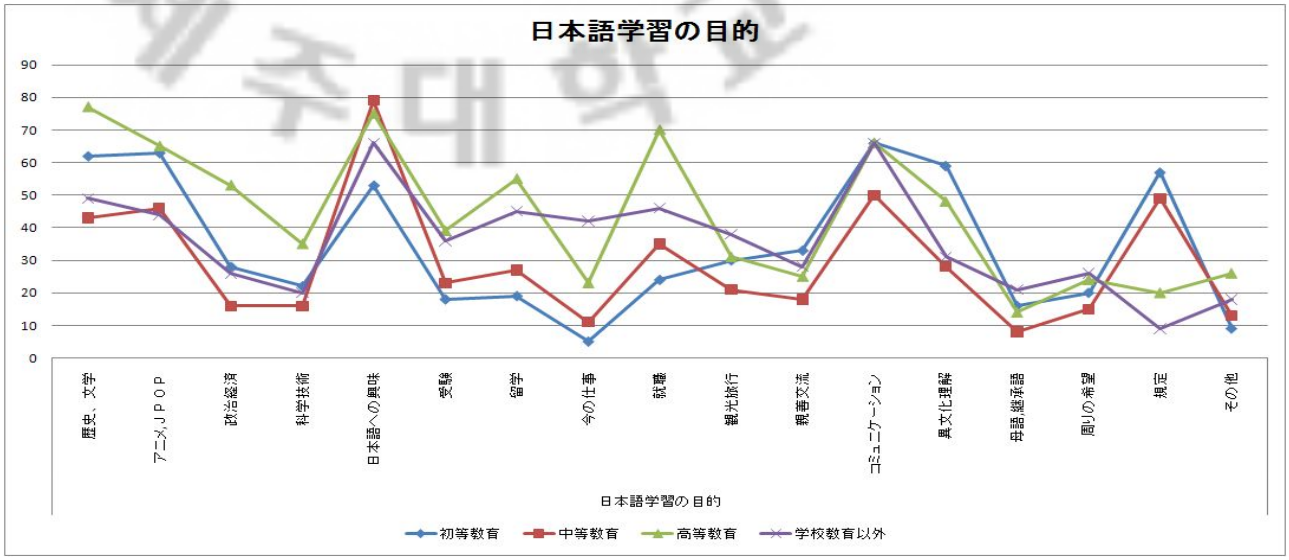
4）国際交流基金，『2009年海外日本語教育機関調査』結果（速報値）pp.2-3.
5）国際交流基金をもとに作成

dCollection @ jeju

2-2　日本語学習の目的

国際交流基金の『2009年海外日本語教育機関調査』では、世界の日本語学習者が日本語を学ぶ目的を調査したもの[6]がある。この調査は＂初等教育機関＂、＂中等教育機関＂、高等教育機関＂、＂学校教育以外＂で日本語学習の目的を学習者に選択してもらったものだ。選択肢は「日本文化知識（歴史、文学）」「日本文化知識（アニメ、漫画、JPOP等）」「日本の政治経済社会知識」「日本の科学技術知識」「日本語への興味」「受験」「留学」「今の仕事」「就職」「日本観光旅行」「親善交流」「日本語によるコミュニケーション」「異文化理解」「母語、継承語」「家族、親族等周囲の希望」「学ぶよう定められている」「その他」の１７項目の中から複数回答する。その結果を表にしたものが表２[7]である。

（表２：世界の学習者が日本語を学ぶ目的）＊縦軸の単位は％



注目する部分は＂初等教育機関＂、＂中等教育機関＂、高等教育機関＂、＂学校教育以外＂の折れ線グラフが割合の違いはあるものの同じような形に動いているのだが、１７項目の中でだた一つ「学ぶよう定められている」の項目ははっきりと別の方向に向いている。「高等教育機関」、「学校教育以外」では選択した割合が低いが、

6）国際交流基金，　p３.
7）国際交流基金，　p３.　から作成

dCollection @ jeju

「初等教育機関」では５割以上、「中等教育機関」では約５割が選択している。

上の調査は世界の日本語学習者が対象なので、実際自分が教えている済州の高校生は、どういう理由、目的で日本語を勉強しているのか気になり、下の様式で調査をしてみた。

2-2-1　韓国のある高校の生徒が日本語を勉強する理由、目的

上の調査は世界の日本語学習者が対象で対象範囲が広いことと、実際自分が教えている済州の高校生は、どういう理由、目的で日本語を勉強しているのか気になり、下の様式で調査をしてみた。

일본어를 공부하는 이유, 목적

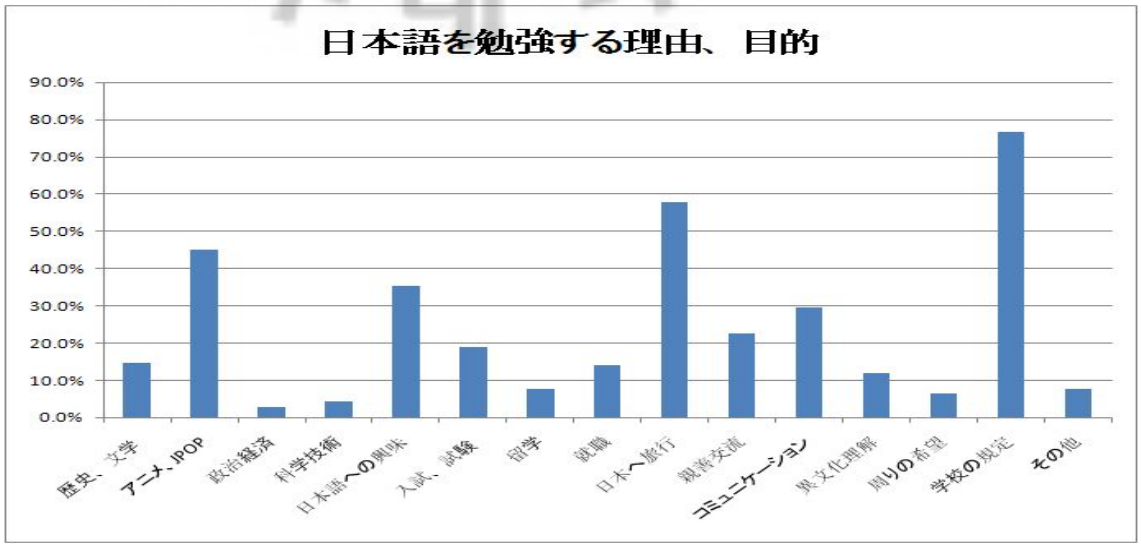
○에 체크해주십시오. 복수회답 가능

○　일본문화(역사, 문학)
○　일본문화(애니메이션, 만화, JPOP)
○　일본의 정치경제, 사회
○　일본의 과학기술
○　일본어에 흥미
○　대학입시, 시험
○　유학
○　취직
○　일본에의 관광 여행
○　친선교류 (일본사람과 친구가 되고 싶다)
○　일본어로 커뮤니케이션
○　이문화이해
○　가족이나 주위의 사람이 희망
○　학교에서 일본어 / 중국어를 선택하게 되어서
○　기타

dCollection @ jeju

調査協力していただいた学校は郊外の男女共学の普通高校[8]で日本語を選択した2年生４クラス（男子クラス１、女子クラス１、男女混合クラス２）の142名で、授業は1週間に日本語Ｉが３時間、日本語会話が２時間あり、他の学校より日本語の授業が多い学校である。この調査では国際交流基金の調査にある「今の仕事」は高校生に当てはまらず、「母語、継承語」は調査対象の高校生には該当しないと判断したので項目から外し、１５の項目を選択肢とした。表３がその結果である。国際交流基金の調査からも中等教育段階での「学ぶよう定められている」から学んでいるという回答が約５割だったことからある程度の予測はできたが、「学校で日本語か中国語を選択することになっている」は７６.８％となり、想像した以上であった。次に多かったのは「日本への旅行」である。これは済州から日本が近距離であることや直通の航空路線もあること、日本に親戚が多いことも回答を後押しし、複数回答が可能なため、学校で選ぶことになってはいるが、旅行に行ったときにも役に立つし、アニメやJPOPが好きだしという生徒も多くなったのだろう。ちなみに複数回答可能な中で「学校で選ぶようになっている」の一つだけを選択した割合は１１.３％だった。

（表３：ある高校の生徒が日本語を勉強する理由）



8) 済州特別自治道東部にある細花高等学校　各学年8クラスの男女共学の普通高校
普通高校は韓国語で인문계고등학교

dCollection @ jeju

Ⅲ　動機づけ

3-1　動機づけ

なぜ、勉強するのか。学習意欲の低下を考える前に学習意欲はどこから来るのかを見てみよう。そのためには動機づけを知らなければならない。動機づけとは行動をおこす誘因や、行動に向けて後押ししてくれるもの、行動の原動力となるものである。日本大百科全書によると[9]、「行動を生じる内的機制について用いられる術語。動因と同じ意味で用いられることもあるが、動因ー誘因の関連を総称する」とある。『大辞泉』では[10]、「心理学で、生活体に行動を起こさせ、目標に向かわせる心理的な過程をいう。内的要因と外的要因の相互作用で成立する」とある。

英語ではモチベーションといい、一般的にはモチベーションという言葉の方を耳にする場合が多い。今ではよく耳にするこのモチベーション、日本では1998年のサッカーフランスワールドカップ以降マスコミを通じてテレビや新聞によって広く日本国民に浸透していった言葉だろう。日本人が使うモチベーションは「やる気」や「意欲」、「活力」という意味もあり、それらが使われている例として

「選手たちは大みそかの試合に向けてモチベーション高く練習にはげんでいる。」

「こんな会場じゃモチベーションが下がっちゃうよ。」

これらは上に書いた「やる気」や「意欲」、「活力」という意味になる。

3-2　外発的動機づけと内発的動機づけ

『大辞泉』にある動機づけの意味の中には「内的要因と外的要因の相互作用で成立する」とある。その外的要因による動機づけを外発的動機づけという。外発的動機づ

9) 『日本大百科全集　CD-ROM版小学館』(1987)
10)『デジタル大辞泉』, http://dictionary.goo.ne.jp/

dCollection @ jeju

けに基づく行動は、行っていることが何かの他の目的のための手段となっているものであり、それによる行動には利害が関係する。例をあげるとお金がほしいためにアルバイトをするのはこの動機づけによるものである。報酬に対する行動なので高額なお金がほしい場合には肉体労働や深夜に労働するなどアルバイトの内容も変わり、より高額なアルバイト代をもらうために辛いことにも耐えることができるようになる。児童，生徒に当てはめれば、「良い点数を取ると両親が小遣いをくれるから勉強する」「成績が良ければ希望する大学に入学できるから勉強する」などがそうであり、逆に「宿題をしないとゲームをさせてくれないから宿題をする」「授業中に寝ると怒られるから勉強する」という行動も外発的動機づけに基づくものである。いわゆるアメとムチ、賞罰である。わかりやすくいえば行動の結果を利害損得の目的としているもの。何かがあるから行動するのであって、その何かとは行動する人にとって目標であったり、利益であったりする。高校生が一生懸命勉強しているのは大学に行くためである。点数や成績によって入学できる大学が決まるので、希望する大学に入るために外発的動機づけによる学習意欲がわいてくるのである。

外的要因による外発的動機づけに対し、内的要因による動機づけを内発的動機づけという。内発的動機づけは興味、関心が誘因になる動機づけで、義務、強制、賞罰に依存しない行動である。周りから命令されることもなく、行動したいときに行動し、行動したくないときは行動しなくても問題はない。楽しいからおもしろいから「したい」「やりたい」「見たい」「行きたい」など本人の好奇心や興味が動機づけとなる。行動すること自体が喜びや満足感で、それが行動に対する報酬となる。趣味はこの内発的動機づけによるものである。

3-2-1　外発的動機づけと内発的動機づけの関係

吉田国子他[11]による動機づけの内在化の５段階から引用すると[12]、外発的動機づけと内発的動機づけは、それぞれ独立したものとも考えられるが、自己決定理論では無動機の状態から内発的に動機づけられている状態まではつながっており、その途中段階にあるのが外発的に動機づけられた状態で３段階あるのだとある。それを図にした

11)安藤史高,岡田涼「自立を支える人間関係」。中谷素之（2007),『学ぶ意欲を育てる人間関係づくり-動機づけの教育心理学』，金子書房　pp.37-39.参照

12)吉田国子（2009),「語学学習における動機づけに関する一考察」，武蔵工業大学環境情報学部紀要第10号ｐ109

dCollection @ jeju

ものが図１である[13]。無動機の状態においては行為者は何も決定しておらず、外発的にも内発的にも動機づけはない。次の段階が外発的動機づけの第一段階で、教育課程にあるから仕方なく勉強する状態である。その勉強をするのが自分の意思ではないため自己決定の度合いは低く、いやいや勉強している状態や強要させられている状態で、この状態のことを外的調節段階という。その次の段階が取り入れ的調節段階といい、勉強する理由が外部ではなく自己内部に存在する。例えば「英語は好きではないが、初級英語ぐらいできないと恥ずかしいから勉強する」や「大学へ行って勉強したくないが、今の時代が高卒だと恥ずかしいから勉強して大学に入る」などが該当する。そして外発的動機づけの最終段階、上に書いた達成動機づけにも該当する部分でもあり、この段階になると行動を個人的に重要なものと考え、将来外国で働きたいとか英語を使う仕事につきたいなどから勉強をする。と自己決定度がかなり高くなる。その自己決定度が変化していく過程で内発的に調整され、英語に興味があり英語を勉強することが楽しいから学ぶという行為につながるのである。

(図１：動機づけ内在化の過程と自己決定度)

<table>
<tr><td>内発的動機づけ</td><td>内発的調整</td><td rowspan="5">高
↑
自己決定度
↓
低</td></tr>
<tr><td rowspan="3">外発的動機づけ</td><td>同一視的調整</td></tr>
<tr><td>取り入れ的調整</td></tr>
<tr><td>外的調整</td></tr>
<tr><td>無動機</td><td>非調整</td></tr>
</table>

日本語の勉強を一生懸命にする高校生の動機づけは外的要因よりも内的要因によるものが強いことは誰もそう思うことだろう。あとで述べる日本の高等学校の第2外国語の場合も同様であるが、韓国の高校生のような内発的動機づけに加えて自己の価値を高めたい行動によるものも多いと思われる。英語のようにみんなが学ぶ教科ではないため履修する生徒は少ないことで勉強していること自体珍しく思われることもある。そのこともあって、たとえば日本で韓国語ができるといえば周りからの注目度も高

13)吉田国子（2009), p109から作成

dCollection @ jeju

く、称賛を受けることもあり、それが刺激となってさらに称賛を受けたいと思うことや、自己の価値を高めようとして学習意欲も高くなるというプラスの作用が働く。また、今まで他の科目でいい成績を取ったことがなく、勉強の面で周囲の期待度が低かった生徒が韓国語に新しい岐路を見つけ、有能感[14]が強化されることにより熱心に勉強するというのは珍しいことではない。

学校の規定で仕方なく日本語を勉強している生徒のような最初は自己決定度が低い状態つまり外発的動機づけだったとしても他の要因が重なり、自己決定度を高めていくことにより要因調整され、結果内発的動機づけに移行し、楽しいから学ぶという行為につながっていくのでないだろうか。

3-3　親和動機づけ

中学高校時代にこういうことがなかっただろうか。元々その教科には関心がなかったが、担当している先生に親しみを感じたり、好意を持ったりして、その教科の勉強が好きになったことが。このような周りの人からの親和的な影響よる動機づけを親和動機づけという。富田[15]を引用すると、親和動機づけの特徴は人間関係を重視している点とし、この動機づけの目的は、好意を持つ他者と友好な関係を形成・維持することにあるとしている。また、小島宏[16]を引用すると、子どもは仲間から認められるときが至福のときであり、それだけに友だちから認められたいとがんばるし、失敗することを恐れる。教師は子どものよさや進歩を認め、集団の中で否定的評価が固定しないよう配慮する必要があるとしている。

内発的動機づけは、興味関心を失うと学習意欲もなくなるという欠点がある。2年生になったばかりのときは日本語に少なからず興味関心があったが、1学期のおわりごろには学習意欲がなくなっている生徒も少なくないだろう。それはこのときの動機づけが非常に弱いものであり、ちょっとしたことでそれを失う、まさにケーキの上にあるろうそくの火のように、ちょっと風が吹いただけで消えてしまうのだ。そのためにも

14）自分には、今していることやこれからしようとすることに対し、能力があるんだという感覚。
15）富田智博(2007)，「外国語学習におけるモチベーションの重要性」，岐阜大学教育学部
16）小島宏（2006)，『学ぶ意欲を高める１００の方法』，教育出版　p55

dCollection @ jeju

う１つの動機づけが必要となってくる。そこで注目するのは親和動機づけである。内発的動機づけに近いものであるが、異なる部分として人間関係がある。内発的動機づけの場合も人が登場するが、それは歌手や俳優といった遠い存在を近く感じようとするあこがれであるのに対し、親和動機づけの場合は身近な人との関係だ。上にも書いたが教師との関係やクラスメイトとの関係といったことの学習環境も動機づけにも大きく関わってくるのだ。友だちといっしょに勉強すれば楽しいとか、いっしょに勉強することでやる気がわいてくるというのもそれに該当し、大学への進学を考えている中学生が高校進学のときに勉強する生徒が多い高校を選ぶのもこの影響が大きいためであろう。

廣森友人はDeci and Ryanを引用し[17]、外発的に動機づけられた行動であっても親密な他者によってその行動が促進されれば、結果としてその行動の価値を自らの中に内在化させることがあると指摘している。このことは外発的動機づけから内発的動機づけにつながっていく場合の親和動機づけの必要性を言っている。

3-4　回避動機づけ

人が行動をするもとになるものが動機づけであるというのは、上にも書いた。これは人を行動させるにも必要なことで、理由もなく人を行動させることは難しい。そこには何かが必要なのである。北田萌子によると[18]「自動車が動くのはエンジンという原動力があり動いている。このエンジンの働きが動機づけで、坂道では自動車はサイドブレーキをかけていない場合、重力によって自然に坂道を下って行く」としている。これを元に考えると人も同じであり、自然に楽な方、楽な方へと行動が向くことはよくあることである。立っていることより座っている方が楽だし、座っているより横たわっている方が楽だろう。

次は２つの要因による同じ行動をわかりやすいよう図２を使って説明する。

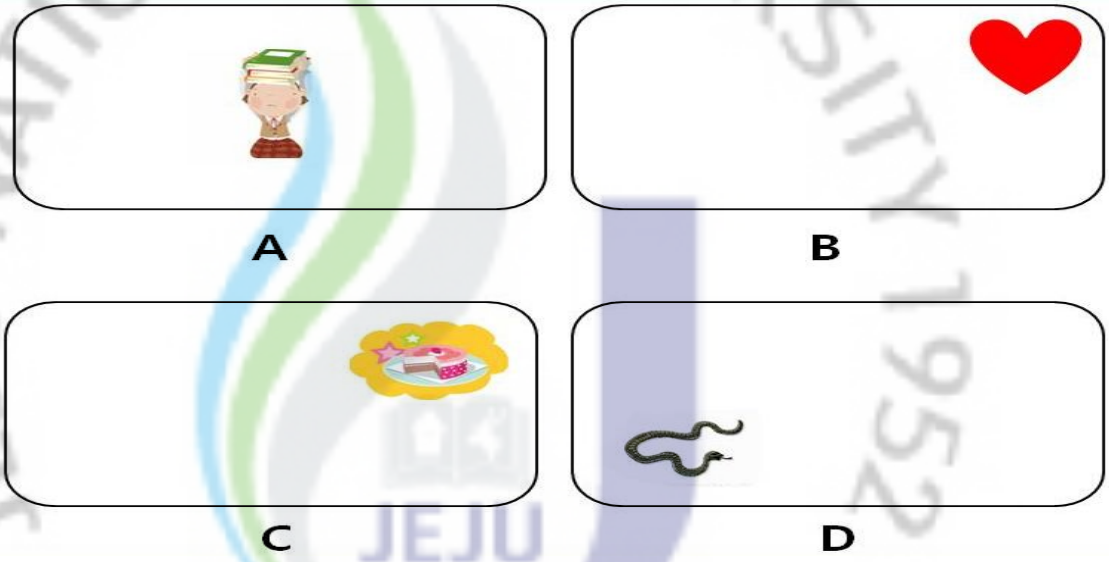
---

17)廣森友人(2005), 「外国語学習者の動機づけを高める３つの要因：全体傾向と個人差の観点から」, 大学英語教育学会紀要第41号, p48

18)北田萌子(2005), 「個人のモチベーションをあげる方法」, 大阪府立大学経済学部, p.8

dCollection @ jeju

（図２：２つの要因による同じ行動）



ABCDは同じ一つの教室である。教室には図２の絵Aのように生徒がいる。その生徒を絵Bのハートの位置に移動させる行動をとらすためには、絵Cのように移動させたい場所（絵Bのハートの位置）に生徒が興味を持つものや好きなものを置けば、生徒はそこに移動する。しかし、それ以外にも方法はある。絵Dのように生徒が嫌うものを移動させたい場所の反対側に置けば、生徒はそれを回避しようと絵Bのハートの位置へ移動する。同じ場所への移動行動であるが、動機づけは違う。このような動機づけを回避動機づけという。

これを日本語の授業に当てはめれば、別に睡魔が襲ってきているわけでもないので眠たくはないが、授業がいやだ、先生がいやだからという理由で寝てしまう行動だ。他にも、授業中に話さなくてもいいことなのだが、授業がいやだから、つまらないから、ついつい友だちと話し始める行動。このような楽な方向に向かう行動や回避しようとする行動が学習意欲の低下につながっているとも考えられる。

3-5　動機づけと学習意欲

では、動機づけがあるから学習するのか。日本のアニメやドラマ、音楽が好きで日本語を勉強している生徒は相当多いであろう。それは上にも書いた内発的動機づけに

dCollection @ jeju

よるものである。しかし、日本のアニメやドラマ、音楽によって内発的に動機づけられたものより、他のことに興味、関心が高くなった場合、日本語の学習意欲は見られなくなる。実際に学校で目にすることがあるが、学校の日本語の授業には学習意欲がなく、学校が終ってから行く日本語の塾で日本語を一生懸命勉強している生徒がそうである。日本語を勉強することに内発的な動機づけがあるにも関わらず、学校の日本語の授業では学習意欲がない。親和動機づけにも関係するが、熱中は周囲に伝染していくため、日本語の塾では周りが持っている日本語学習熱がその生徒の意欲を増大させるのに対し、学校では日本語の勉強以外の熱中が集団伝染し、それが圧力や誘惑となって学習意欲がなくなっていくのだ。つまり日本語に興味関心があるから日本語を勉強するということは必ずしも正解ではないということになる。

R.J.ウラッドコースキーを引用すると[19]「○○（生徒名）はやる気がないのではなく、私と勉強することに動機づけをもっていない。」と言っている。生徒の行動が教師が求めている方向でない場合に教師は教師中心的に見て、やる気がないと言うが、生徒の立場からすれば、友だちと雑談したり、他のことをしながらでも勉強していると思っているのだろう。学習する動機づけより他の行動をする動機づけが主となっているためにそれが行動となって現れるのである。

19） R.J.ウラッドコースキー(1991), 『やる気を引き出す授業』, 新井邦二郎・鳥塚秀子・丹羽洋子共訳. 田研出版株式会社, p 5

dCollection @ jeju

Ⅳ　学習意欲が低下する要因と考えられるもの

4-1　大学入試との関係

4-1-1　教師側から見る学習意欲の低下

生徒の学習意欲が低下することについて韓国の高等学校で日本語を担当している教師たちによると、大学への進学を希望している生徒は、2年生の2学期ごろから大学入試を強く意識し始めるそうだ。そのため夏休みが明けると、

「大学入試に関係がない日本語はがんばっても何にもならないから。」

「入試に関係ないので別に今やらなくてもいいから。」

という理由で学習意欲が低くなると声をそろえる。この理由は大学入試のために本当は好きではない教科を猛勉強する生徒も多いことと同じ理論だろう。好きだから勉強しているのではなく、いい点数やいい成績を収めれば、希望する大学に入れるし、いい大学に入れば人生も変わる。そのために勉強していることなのであって、これは外発的動機づけによる当然の行動だろう。

韓国の大学入試で日本語が必要な大学、学部は極少数で、日本語を選択受験してプラスになる大学も多いとは言えない。これが学習意欲低下の大根元なのだろうか。

では、そういうことがすでにわかっていながら、なぜ高校2年時に履修させるのだろう。学習意欲の低下は大学入試が主な要因なのだろうか。それなら逆に学習意欲を高めさせるために大学入試において日本語を義務づければいいという声もある。しかし、高等学校で日本語を学習する意味はそうではないはずだ。

4-1-2日本の高等学校では人気が出ている第2外国語

大学入試で必要がない科目なので、それが原因で学習意欲が低下するという仮説で、韓国のように大学入試が厳しいと言われる日本の状況を見てみよう。韓国の高等学校のように日本でも英語以外の外国語が履修できる学校がある。日本の中等教育では英語が第１外国語、それ以外の外国語が第２外国語として位置づけられているわけではないが、便宜上第２外国語という言葉で書いていく。韓国では日本語などの第2外

dCollection @ jeju

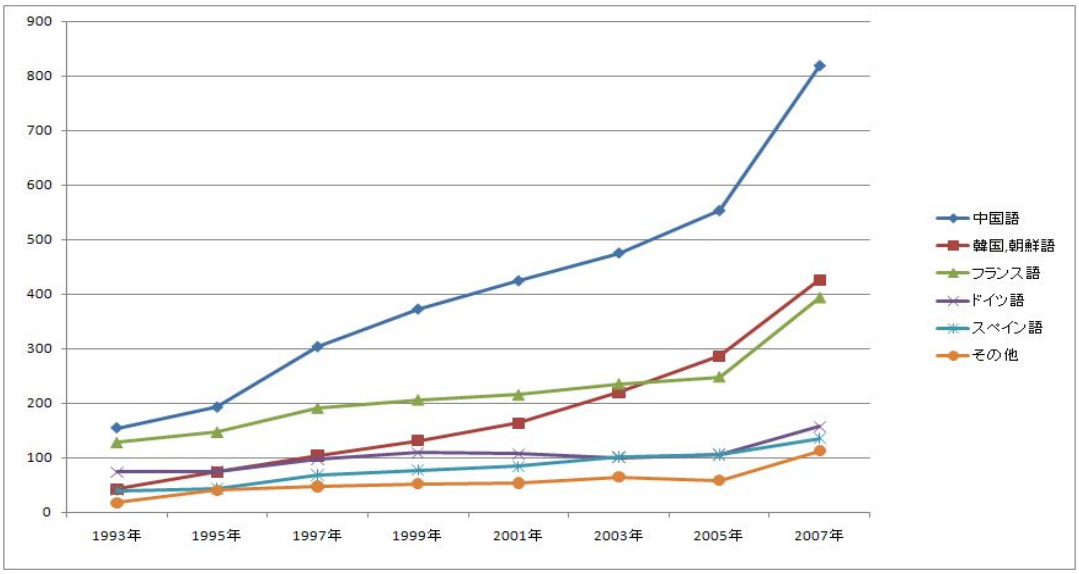
国語の学習意欲が学習経過時間が過ぎるにつれ低下している現状でありながら、日本では逆に第２外国語の授業を新たに作ろうとする学校が増加している。

第2外国語の開設ついては、現在のところ個々の学校の裁量あるいは学校関係者の熱意に委ねられている。第2外国語を開設している学校は文部科学省が毎年実施している「学校基本調査」と隔年実施している「高等学校等における国際交流等の状況」から高等学校における第2外国語の開設と履修状況がわかる。表４は第2外国語の言語別の開設学校数の推移[20]である。

2007年度の数字では「英語以外の外国語」の学校数(5,313校)で見た開設率は、中国語15.42％(819校)、フランス語7.40％(393校)、韓国,朝鮮語(以下韓国語)8.02％(426校)、ドイツ語2.96％(157校)、スペイン語2.54％(135校)となっている。

（表４：言語別の開設学校数の推移.単位：校）

	1993年	1995年	1997年	1999年	2001年	2003年	2005年	2007年
中国語	154	192	303	372	424	475	553	819
韓国語	42	73	103	131	163	219	286	426
フランス語	128	147	191	206	215	235	248	393
ドイツ語	73	75	97	109	107	100	105	157
スペイン語	39	43	68	77	84	101	105	135
その他	17	40	47	52	53	64	58	112



この開設率は延べ数を集計したものであり、２つの講座を開講している場合はそれぞれに集計している。また生徒の履修状況は、高校生1,000人に対して、中国語6.2

20）文部科学省(2007)，『高等学校等における国際交流等の状況』，ｐ37から作成

dCollection @ jeju

人、フランス語3.0人、韓国語2.6人、ドイツ語1.1人、スペイン語0.8人となっている。これも上の数字と同様に延べ数であり２つの科目を履修した場合は２人と集計している。

日本の高等学校においては第2外国語が開設されている学校自体が少なかったが、近年、英語圏以外の言語との触れ合いが増えたこともあり、高等学校においても第2外国語を開設する学校が増えてきた。しかし必修ではなく生徒の選択により第2外国語を選ぶようになっているので勉強したくなければ選ばなくてもいいということが前提になっている。

秋田県内で英語と韓国語を指導している教師は「あまり英語が得意でない生徒が多いが、韓国語はみんなゼロからのスタートなので、他の教科に関係なく勉強に取り組めてみんな生き生きと学んでいる。また、韓国語を習っていない生徒も廊下で"アニョンハセヨ"などとあいさつしてきたりと、韓国語への興味が学校全体に広がっている感じがする」と効果を強調する。しかし、肯定的な意見ばかりではく、第2外国語開設に対し慎重な姿勢も見られる。同じ秋田県内のある高校関係者は「公立の場合、中学と高校で計６年間英語を学んでいるが、受験勉強が優先で、話せるようになるのはなかなか難しいのが現状。そんな中、高校で第２外国語まで勉強するのは、正直言ってやや無理があるのでは」と指摘する声もある。

4-1-3　履修する理由の違い

日本の場合これまで第2外国語を開設している学校自体が少なく、90年後半以降、高校生や地域の要望などにより開設する傾向が見られる。そのため開設前から関心が強く、その教科が好きな生徒が受講するので必然的に学習意欲も高くなる。ならば大学受験とそれに関係がない科目の学習意欲はどうなのだろうか。

武井一の『高校時代になぜ第2外国語を学ぶのか-日比谷高等学校のハングル授業を中心として』によると、東京都屈指の進学校日比谷高等学校では、第2外国語の授業を受けることができる。そこで韓国語を勉強した生徒は、「受験科目ではないために気分的に楽に勉強できた。」「受験に関係ないので自由に勉強できた。」という[21]。これは「受験に関係ないから適当でいい」ということではなく韓国語は受験に束縛され

21)　武井一(2007), 「高校時代になぜ第2外国語を学ぶのか-日比谷高等学校のハングル授業を中心として」, pp, 14-16.

dCollection @ jeju

ないから自分の関心に従って自由に学べるという意味だ。また、大学に入学すると専門分野の勉強が中心になるから高校の時はいろいろ勉強したいという意見もあったとある。また、西澤俊幸の『ハングルの授業はいつもちょっぴりドキドキー長野県松本蟻ヶ崎高等学校で韓国語を学んだ生徒たちー』では、「ハングル基礎」を選択した動機を調査している[22]。それを見ると「英語以外の外国語をやってみたいと思っていた」６７％、「受験科目に関係ないので気楽にできそうだった」３１％、「韓国に関心があった」３０％、「先輩から授業の話を聞いて面白そうだと思っていた」３０％、「アジアに関心があった」３０％となっている。西澤は長野県松本蟻ヶ崎高等学校で６年間在籍していて、毎年最初の授業で韓国語を選択した動機を調査しているが、毎年同じような結果になるのだそうだ。

ここで注目する部分は東京都日比谷高等学校と長野県松本蟻ヶ崎高等学校の場合にも韓国語を選択したには"大学受験と関係がないから"という理由が動機づけになっていることだ。これが韓国の高等学校の場合との違いであろう。大学入試と関係がないから気楽に勉強できたり、自分のペースで勉強できたりするのだ。

このことから、大学入試で必要がない科目なので、それが原因で学習意欲が低下するという仮説は日本ではなりたたない場合がある。

4-1-4　クラブ活動と大学進学

さらに教科,科目以外でも、日本の高等学校のクラブ活動で見ると内発的動機づけに基づく行動の特徴的な部分が見えてくる。クラブ活動はほとんどの学校で自由参加であり、クラブに入らない生徒は学校の授業が終わると、家に帰ったり、学習塾に行って勉強したり、アルバイトをしたりする。そのような状況から見るとクラブに入る生徒は好きだからとか興味があるからという内発的動機づけにより入部する場合がほとんどである。一部にはクラブ活動で全国大会に出場したり、入賞したりすると大学に推薦で入学できるからという理由で一生懸命クラブ活動に励んでいる例もあるようだが、これはごく少数であろう。では、クラブ活動が大学入試に関係がない場合、クラブ活動に対する意欲はどうなるのだろう。クラブ活動をすると大学入試の勉強ができなくなるのだろうか。大学入試に関係がないクラブには入らないのだろうか。

日本で最難関の大学、東京大学はクラブ活動のスポーツ推薦で入学することはでき

22) 西澤俊幸(2005), 『ハングルの授業はいつもちょっぴりドキドキ』, 2005年度　読売教育賞　p８

dCollection @ jeju

ない。試験の点数によって合否が決まる大学である。その東京大学に入学した学生はクラブ活動をしていたのだろうか。東京大学野球部のホームページ[23]によると野球部に入っているマネージャーを除く部員３９名の内、３７名は高校のとき野球を経験している。ほとんどがクラブ活動と思ってもいいだろう。中には主将でチームを引っ張っていた学生もいる。同じく東京大学の柔道部のホームページ[24]では、高校時代のクラブ活動のことはわからないが、部員の段位が書いてあり、１年生７名の内６人が有段者となっている。有段者とは黒帯のことで、少しぐらい柔道をしたからといってそう簡単に有段者にはなれないことを考えると、この６人はクラブ活動をしていたと考えることが自然だろう。

クラブ加入率と４年制大学への進学について松下真治[25]は大阪府を中心とする114校各学校1人の114名の教員に調査をしている。それによると４年制大学に進学した生徒のクラブ加入率は６３.９２％であった。日本の高校生の約半数はクラブ活動をしていることや、アルバイトをしている高校生も少なくないことを考えると大学入試科目以外のことを高校時代にしても大学には入学が可能であり、大学入試との関係は本人のやる気しだいということになるのではないだろうか。

4-2　生徒が口にする学習意欲低下の要因

4-2-1　難しい教科書

学習意欲が低くなる原因で必ず出てくる生徒の声が、"授業が難しい"や"がんばってもいい点数が取れない"である。授業が難しい理由として、最初に考えられるのが、教科書自体が難しいから授業が難しいのではないか、ということだ。では、実際、高校で使っている教科書を見てみることにする。教科書は次の７冊で、難易度を見るために、○意思疎通技能、○学習内容（文型、動詞や形容詞の活用）、○漢字、を比べてみる。

23）東京大学野球部ホームページ　http://www.tokyo-bbc.net/
24）東京大学柔道部ホームページ　http://www.akamonjudo.com/
25）松下眞治(2010)，「高校中途退学と部活動加入との関連についての一考察」，国立青少年教育振興機構研究紀要第10号，p 131

dCollection @ jeju

대한교과서　『고등학교日本語Ⅰ』(全１２課)
와이비엠시사　『고등학교日本語Ⅰ』(全１２課)
블랙박스　『고등학교日本語Ⅰ』(全１０課)
진명출판사(이현기)　『고등학교日本語Ⅰ』(全１０課)
진명출판사(유길동)　『고등학교日本語Ⅰ』(全１２課)
성언당　『고등학교日本語Ⅰ』(全１２課)
지학사　『고등학교日本語Ⅰ』(全１２課)
これらの教科書の中で、学習意欲の低下が見られ始めると思われる時期（二学期の初めごろ）に勉強することが多い第５課の内容を見てみる。

★대한교과서 日本語Ⅰ　第５課「もしもし、ソラですが」

意思疎通技能＊えいがをみるのはどうですか。
＊とてもたのしかったです。
＊きのうはコンサートへ行きました。
＊にちようびはつごうがわるいんです。

学習内容：動詞のます形と辞書形は４課で学習し、５課では～ましょう、～ませんか。形容詞は過去形を勉強する。

漢字：映画、土曜日、人気などがあるが、本文にルビがふってある。

★와이비엠시사　日本語Ⅰ　第５課「Eメールぐらいはできます」

意思疏通技能＊きょうは週末ですから
＊いいえ、そうではありません。
＊ロックは好きですが、クラシックは好きじゃありません。
＊ところで、音楽は好きですか。
＊日本語が上手ですね。

学習内容：動詞のます形と辞書形と形容詞の連結形を勉強する。

漢字：若者、人気、原宿、週末、習うなど。本文にはルビはないが、本文下に出てくる漢字としてルビがふってある。

★블랙박스　日本語Ⅰ　第５課「サッカーを見に行きませんか」

意思疏通技能＊サッカーを見に行きませんか。
＊すみません、土曜日は約束があるんですが。
＊外にいますから、けいたい電話にお願いします。

dCollection @ jeju

＊はい、わかりました。

＊見るのは好きですが、やるのはちょっと。

学習内容：動詞のます形辞書形は４課で学習し、５課ではその確認。理由の「から」、「～んです」

漢字：土曜日、約束、電話、増える、勝つなど。本文にはルビはないが、本文下にに出てくる漢字としてルビがふってある。

★진명출판사(이현기)　日本語Ⅰ　第５課「あついですね」意思疏通技能ではなく学習項目とある。

学習項目＊今日はあついですね。そうですね。

＊お元気ですか。はい、元気です。

＊おもしろいですか。

＊はい、おもしろいです。いいえおもしろくありません。

＊どうですか。おいしいです。

学習内容：主として形容詞を勉強する。動詞は第７課で勉強する。

漢字：元気、顔、鼻、先生など。本文にはルビはないが、まとめのところに出てくる漢字としてルビがふってある。

★진명출판사(유길동)　日本語Ⅰ　第５課「もしもし」

意思疏通技能＊もしもし、ひろこさんいらっしゃいますか。

＊あした、いっしょにべんきょうしませんか。

＊電話番号は何番ですか。

学習内容：動詞のます形は第４課で学習。第５課では「～ましょう」「～ませんか」、電話番号と電話応対。

漢字：日曜日、映画、お宅、飯田など。本文にはルビはないが、本文下に出てくる漢字としてルビがふってある。

★성언당　日本語Ⅰ　第５課「景福宮へ行く予定です」

意思疏通技能＊お会いできてうれしいです。

＊あ、それは楽しそうですね。

＊それから景福宮へ行く予定です。

＊はい、わかりました。

学習内容：動詞のます形と辞書形は第４課で学習し、第５課ではそれを使って、約

dCollection @ jeju

束をする。予定を話すがテーマとなっている。

漢字：今度、船、何時、会うなど。基本的に本文にはルビがふってあるが、一部にはルビがなく、欄外に漢字の意味といっしょにでている。

★지학사　日本語Ⅰ　第５課「授業はたのしいです」

意思疏通技能＊少しむずかしいですが、おもしろいです。

＊きのうの映画はとてもおもしろかったです。

学習内容：形容詞を使い、周りの事物を表現したり、自分の心情を話す。

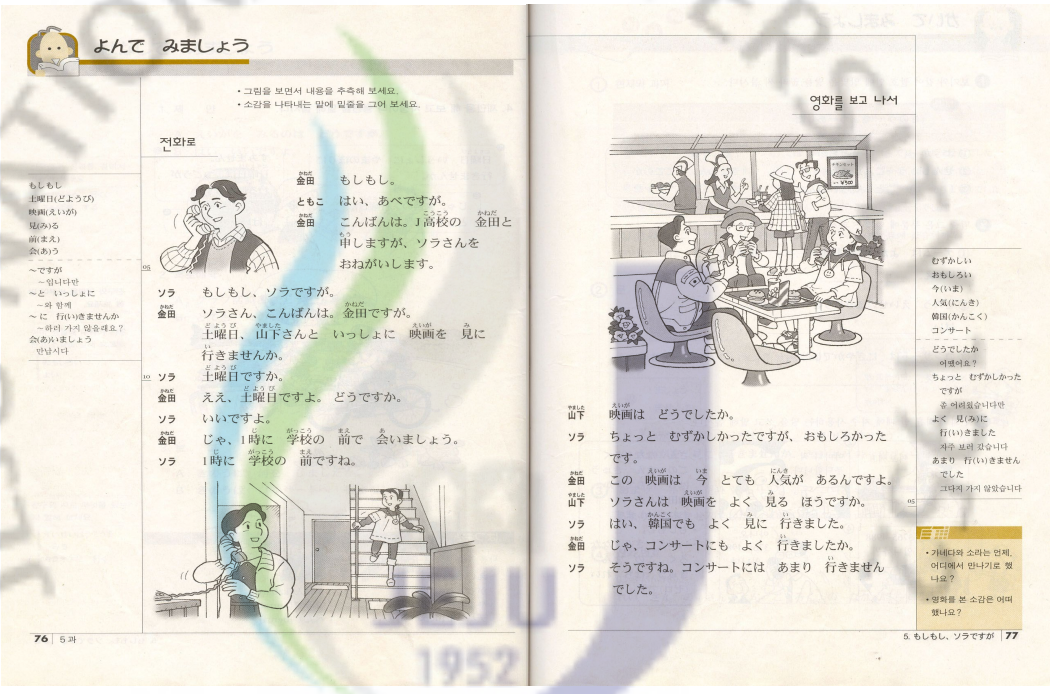
漢字：授業、映画、狭い、食堂など。本文にルビはないが、他の場所でルビをふっている。

７冊の教科書のうち５冊が第５課で動詞を学習する。第４課で動詞を扱っている教科書の方が多いが、１学期末に動詞を勉強したとしても、夏休みの間に忘れてしまうことは十分に考えられる。形容詞の場合、生徒は学習前から「おいしい」「すごい」「かわいい」「いたい」などは知っており、比較的学習しやすい部分に対し、動詞はます形、辞書形など活用が複雑であることや漢字で教科書に書かれている場合が多いこともあり、より難しく感じる部分である。

第５課に入ると本文や読む部分の内容が濃くなっており、ひらがながスムーズに読めずカタカナや漢字が読めない生徒は教科書を開いて見ただけでも拒否反応を示すこともあるだろう。教科書の内容が難しいからという理由とともに文字数が多くなり、読めなくなって授業についていけないという理由もあるだろう。以下は教科書をスキャンしたものである[26]。電話をかけて、友だちを誘うという会話内容が似ている２冊を取り上げる。

26) 김숙자外3名(2002), 『고등학교日本語Ⅰ』대한교과서, pp.76-77.

dCollection @ jeju



よんで みましょう

• 그림을 보면서 내용을 추측해 보세요.
• 소감을 나타내는 말에 밑줄을 그어 보세요.

전화로

金田 もしもし。
ともこ はい、あべですが。
金田 こんばんは。J高校の 金田と申しますが、ソラさんをおねがいします。

ソラ もしもし、ソラですが。
金田 ソラさん、こんばんは。金田ですが。土曜日、山下さんと いっしょに 映画を 見に行きませんか。
ソラ 土曜日ですか。
金田 ええ、土曜日ですよ。どうですか。
ソラ いいですよ。
金田 じゃ、1時に 学校の 前で 会いましょう。
ソラ 1時に 学校の 前ですね。

もしもし
土曜日(どようび)
映画(えいが)
見(みる)
前(まえ)
会(あう)
～ですが ～입니다만
～と いっしょに ～와 함께
～に 行(い)きませんか ～하러 가지 않을래요?
会(あ)いましょう 만납시다

76 | 5 과

영화를 보고 나서

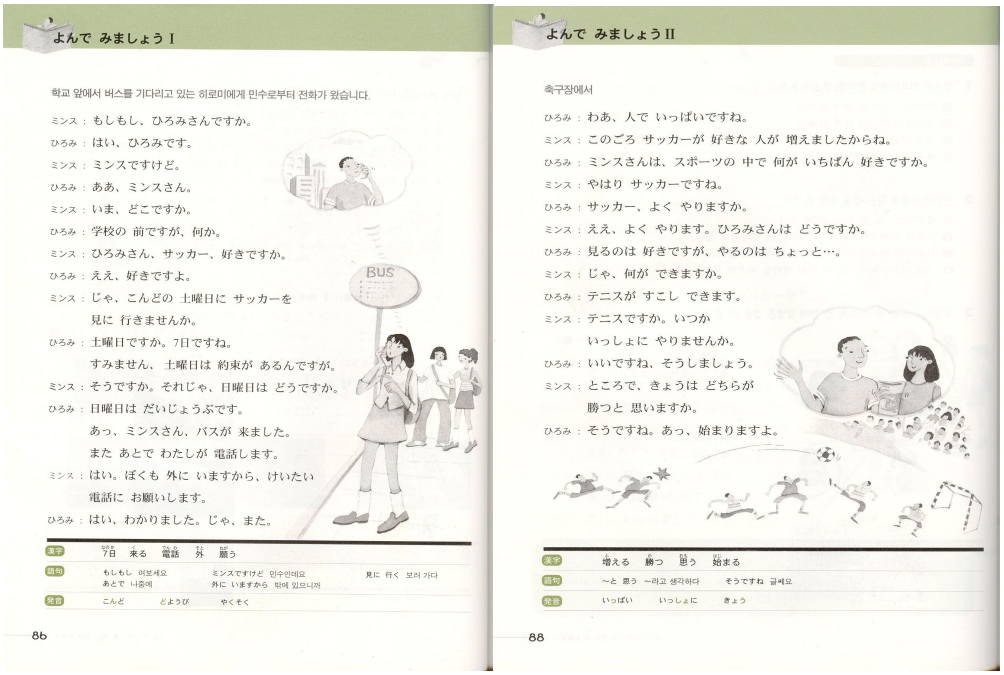
山下 映画は どうでしたか。
ソラ ちょっと むずかしかったですが、おもしろかったです。
金田 この 映画は 今 とても 人気が あるんですよ。
山下 ソラさんは 映画を よく 見る ほうですか。
ソラ はい、韓国でも よく 見に 行きました。
金田 じゃ、コンサートにも よく 行きましたか。
ソラ そうですね。コンサートには あまり 行きませんでした。

むずかしい
おもしろい
今(いま)
人気(にんき)
韓国(かんこく)
コンサート
どうでしたか 어떻어요?
ちょっと むずかしかったですが 조 어려웠습니다만
よく 見(み)に 行(い)きました 자주 보러 갔습니다
あまり 行(い)きませんでした 그다지 가지 않았습니다

自補
• 가네다와 소라는 언제, 어디에서 만나기로 했나요?
• 영화를 본 소감은 어떠했나요?

5. もしもし、ソラですが | 77

上の教科書は대한교과서の『고등학교日本語Ⅰ』第５課の本文である。絵は分かりやすい興味を引きそうな感じではある。漢字にルビはふってあるものの会話の本文自体が長く、文字数も多いため、夏休み明けの２学期このページを開いて見た瞬間、難しいという印象を持つかもしれない。



よんで みましょうⅠ

학교 앞에서 버스를 기다리고 있는 히로미에게 민수로부터 전화가 왔습니다.

ミンス：もしもし、ひろみさんですか。
ひろみ：はい、ひろみです。
ミンス：ミンスですけど。
ひろみ：ああ、ミンスさん。
ミンス：いま、どこですか。
ひろみ：学校の 前ですが、何か。
ミンス：ひろみさん、サッカー、好きですか。
ひろみ：ええ、好きですよ。
ミンス：じゃ、こんどの 土曜日に サッカーを見に 行きませんか。
ひろみ：土曜日ですか。7日ですね。すみません、土曜日は 約束が あるんですが。
ミンス：そうですか。それじゃ、日曜日は どうですか。
ひろみ：日曜日は だいじょうぶです。あっ、ミンスさん、バスが 来ました。また あとで わたしが 電話します。
ミンス：はい。ぼくも 外に いますから、けいたい電話に お願いします。
ひろみ：はい、わかりました。じゃ、また。

漢字 7日 来る 電話 外 願う
話句 もしもし 여보세요 / あとで 나중에 / ミンスですけど 민수인데요 / 外に いますから 밖에 있으니까 / 見に 行く 보러 가다
発音 こんど どようび やくそく

86

よんで みましょうⅡ

축구장에서

ひろみ：わあ、人で いっぱいですね。
ミンス：このごろ サッカーが 好きな 人が 増えましたからね。
ひろみ：ミンスさんは、スポーツの 中で 何が いちばん 好きですか。
ミンス：やはり サッカーですね。
ひろみ：サッカー、よく やりますか。
ミンス：ええ、よく やります。ひろみさんは どうですか。
ひろみ：見るのは 好きですが、やるのは ちょっと…。
ミンス：じゃ、何が できますか。
ひろみ：テニスが すこし できます。
ミンス：テニスですか。いつか いっしょに やりませんか。
ひろみ：いいですね、そうしましょう。
ミンス：ところで、きょうは どちらが 勝つと 思いますか。
ひろみ：そうですね。あっ、始まりますよ。

漢字 増える 勝つ 思う 始まる
話句 ～と 思う ～라고 생각하다 / そうですね 글쎄요
発音 いっぱい いっしょに きょう

88

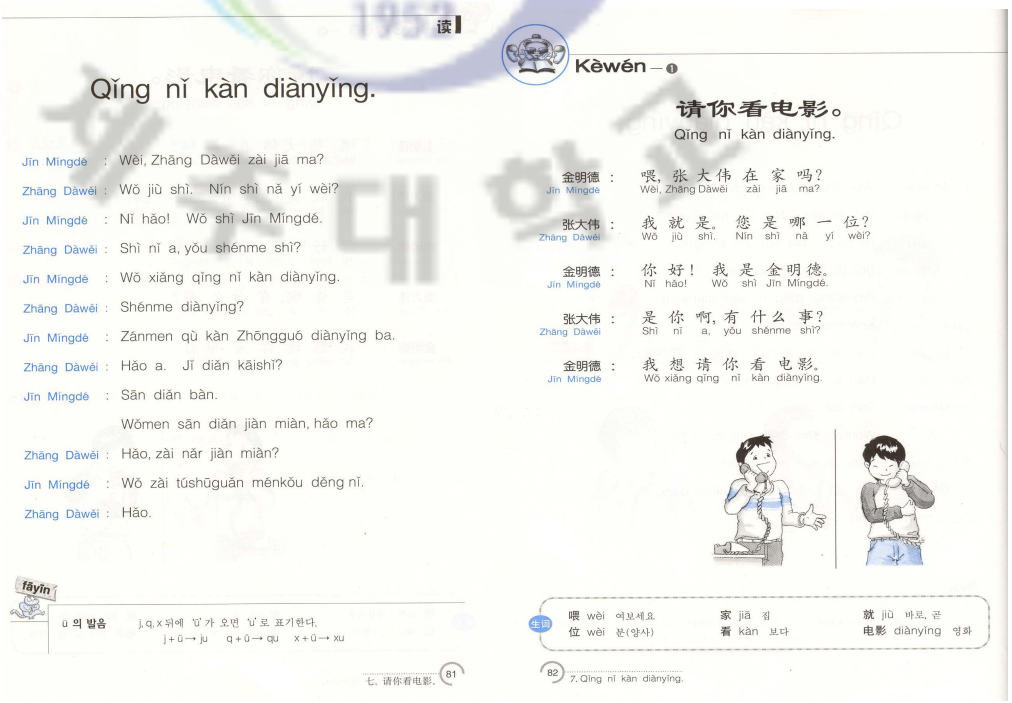
次は블랙박스の『日本語Ⅰ』第５課の本文があるページ27)だが、上で見た대한교과

dCollection @ jeju

JEJU NATIONAL UNIVERSITY 1952 JEJU 제주대학교

서の『日本語Ⅰ』第５課と比べても分かるように、ページ内が文字でいっぱいである。さし絵もあるのだが、それ以上に文字の圧迫感が迫ってくる。また、新しく習う単語は欄外に漢字の欄があり、ルビがふってあるが、それまでに第５課までに出てきた漢字にはルビがふられていない。習う時期が夏休み明けの２学期だと考えると漢字の読み方も忘れているかもしれない。夏休みに日本語を勉強する機会は少なく、１学期に習ったことを忘れることも十分に想定できる。ある生徒が１学期に日本語の成績がよかったからといっても２学期になって教科書を開いたら、読めなくなっていたりして難しいと感じることもある。こういった夏休み明けの難しく感じる教科書や授業が要因となって学習意欲が低下することも大いに考えられる。

次は中国語の教科書[28]を見てみよう。中国語の教科書も、友だちに電話をかけて映画を見に行こうと誘い、約束の時間と場所を決める大体おなじ内容である。


读

Qǐng nǐ kàn diànyǐng.

Jīn Míngdé : Wèi, Zhāng Dàwéi zài jiā ma?
Zhāng Dàwéi : Wǒ jiù shì. Nín shì nǎ yí wèi?
Jīn Míngdé : Nǐ hǎo! Wǒ shì Jīn Míngdé.
Zhāng Dàwéi : Shì nǐ a, yǒu shénme shì?
Jīn Míngdé : Wǒ xiǎng qǐng nǐ kàn diànyǐng.
Zhāng Dàwéi : Shénme diànyǐng?
Jīn Míngdé : Zánmen qù kàn Zhōngguó diànyǐng ba.
Zhāng Dàwéi : Hǎo a. Jǐ diǎn kāishǐ?
Jīn Míngdé : Sān diǎn bàn.
Wǒmen sān diǎn jiàn miàn, hǎo ma?
Zhāng Dàwéi : Hǎo, zài nǎr jiàn miàn?
Jīn Míngdé : Wǒ zài túshūguǎn ménkǒu děng nǐ.
Zhāng Dàwéi : Hǎo.

fāyīn
ü 의 발음 j, q, x 뒤에 'ü' 가 오면 'u' 로 표기한다.
j+ü→ju q+ü→qu x+ü→xu

七、请你看电影。 81

Kèwén—❶

请你看电影。
Qǐng nǐ kàn diànyǐng.

金明德 Jīn Míngdé : 喂，张大伟在家吗？ Wèi, Zhāng Dàwéi zài jiā ma?
张大伟 Zhāng Dàwéi : 我就是。您是哪一位？ Wǒ jiù shì. Nín shì nǎ yí wèi?
金明德 Jīn Míngdé : 你好！我是金明德。 Nǐ hǎo! Wǒ shì Jīn Míngdé.
张大伟 Zhāng Dàwéi : 是你啊，有什么事？ Shì nǐ a, yǒu shénme shì?
金明德 Jīn Míngdé : 我想请你看电影。 Wǒ xiǎng qǐng nǐ kàn diànyǐng.

生词
喂 wèi 여보세요
位 wèi 분(양사)
家 jiā 집
看 kàn 보다
就 jiù 바로, 곧
电影 diànyǐng 영화

82 7. Qǐng nǐ kàn diànyǐng.

ｐ81は一見すると英語の教科書のようであるが、中国語の教科書である。本文全体がピンインで書いてあり、同じ内容の漢字文をｐ82,83にピンイン付きで書いてある。日本語の教科書の場合、ひらがな,カタカナ,漢字が読めなければ、教科書を読むことができないが、中国語の場合、漢字が読めなくてもピンインで読むことは可能なのだ。実際に生徒の中には、日本語で簡単な会話ができるが、文字が読めないという生

27) 한미경外3名 (2002), 『고등학교日本語Ⅰ』블랙박스, pp.86-88.
28) 박덕준外2名 (2002), 『고등학교中国语Ⅰ』,正進出版社,pp.81-82.

dCollection @ jeju

徒も珍しくない。ひらがなカタカナを覚えるのに時間がかかり、授業から遠ざかっていくケースも考えられる。下は高等学校の日本語の学習目標29)である。

총괄 목표

(1) 기능적 목표

(가) 일상 생활 일본어의 이해

(나) 일본어에 의한 의사 소통 능력

(다) 일본어 정보의 검색 능력

(2) 정의적 목표

(가) 의사 소통과 정보 검색에 적극적으로 임하는 자세

(나) 일본의 언어와 문화에 대한 관심

(다) 일본인과의 의사 소통 및 국제 교류에 능동적으로 임하는 자세

これらの目標からは意志疏通能力の育成が主であるように思われる。非漢字圏では、日本語をローマ字を使って教えているところもある。コミュニケーションが主の目標の場合、初めから文字にこだわる必要はないのではないだろうか。文字の習得をもう少し長いスパンで考え、まずは会話する楽しさから入っていく方法もあるだろう。

4-2-2　成績がよくならない

一生懸命がんばって勉強したのに成績が思ったよりよくなく、それが原因となって学習意欲が低下したという話も生徒から聞いたことがある。仕組みを聞くと'なるほど'と納得できる部分がある。高校の成績は相対評価で判断され上から順に一等級~九等級になっている（表５）30)。その比率は下の通りで、一等級が取れる生徒はたった４％なので同じ学年に日本語能力試験N4やN3あるいはそれ以上を持っている生徒が何人かいる場合、高校から日本語を始めた生徒はがんばっても一等級の成績を取ることは容易ではない。

29) 제7차 고등학교 일본어 교육과정 해설

30) ハングルで書かれた高等学校の等級比率表を日本語にしたもの。

dCollection @ jeju

（表５：等級比率表）

等　級	比　率
一等級	～　４％以下
二等級	４％を越え～１１％以下
三等級	１１％を越え～２３％以下
四等級	２３％を越え～４０％以下
五等級	４０％を越え～６０％以下
六等級	６０％を越え～７７％以下
七等級	７７％を越え～８９％以下
八等級	８９％を越え～９６％以下
九等級	９６％を越え～１００％以下

<例示 資料(在籍数 178名の場合)>

区分	一等級	二等級	三等級	四等級	五等級	六等級	七等級	八等級	九等級
累積比率	4%	11%	23%	40%	60%	77%	89%	96%	100%
累積人員	7.12	19.58	40.94	71.2	106.8	137.06	158.42	170.88	178
四捨五入	7	20	41	71	107	137	158	171	178
等級人員	7	13	21	30	36	30	21	13	7

成績の判断基準になるのは中間期末考査以外に遂行評価や授業態度なども判断の材料になるが、授業態度の場合、がんばっている生徒は態度で減点される場合は少ないだろうし、遂行評価は授業で習ったことなどが遂行できるかを評価するので基本的にいい点になるよう評価する。これらの評価の場合まじめに取り組んでいる生徒はいい評価を受けるため、個々に大きい差は生じない。評価に大きい影響を与える判断材料となるのが、中間期末考査なのだ。この中間期末考査では、１００点や９８点などいい点数を取ることが非常に困難である。

なぜ、いい点数が取れないのか、高校入学前に日本語を勉強した生徒や日本語能力試験N4やN3に合格した生徒でもそうなのか。答えは"そう"である。その原因になっている仕組みは簡単だ。上の表の等級人員では該当するが生徒１７８人の場合を書いている。１７８人はクラスに分けると5,6クラス程度になるが、一等級を取ることができる生徒は７人。クラス別にすると各クラスに2人いるかいないかぐらいになる。日本語ができる生徒や好きな生徒は当然一等級を取りたいと思って勉強するだろ

dCollection @ jeju

う。しかし、そう思って勉強する人数が多ければ多いほど試験が難しくなり、容易に一等級が取れなくなるのである。仮に１００点が３人、９８点が2人、９６点が４人出たとしよう。１００点の３人と９８点の２人は一等級が取れるが、９６点の４人は一等級の人数が決まっているので４人を一等級にすることはできなくなる。９６点の４人のうち２人までは一等級が可能なのだか、同点であるためその２人を選ぶことはできない。結果、同点である４人は二等級になってしまうのだ。それでは生徒のためにならないので、このようなことなくすために中間期末考査以外にも判断材料を求めて同点を作らないようにしているのだ。しかし、中間期末考査以外は上にも書いたが、上位の生徒にとって、それほど差ができるものではない。結局、評価をつけるためには生徒を成績順に並べる必要があり、配分された比率になるようテストで調整しているとも言えるのではないか。

生徒みんなが一生懸命勉強すればするほど、本当はうれしいはずの教師なのだが、反対にそれでは困るのだろう。生徒がみんな勉強していい点数を取るということは教師の教え方がいいとも言えるし、本来教師が目指している姿である。しかし、成績を出したり評価しないといけないことを深く考えるあまり、クラスには勉強する生徒から勉強しない生徒まで幅広くいた方が都合がいいと考えているならば、生徒の学習意欲が低下することに関しては、さほど敏感に感じることでもないだろう。

4-3　他の教育機関の学生の調査から

荒井貴和の『なにが外国語学習者のやる気を失わせるか？』で外国語学習に対する動機減退を調査している。それを引用すると[31)]。

１.被験者

被験者は東京都内私立大学の日本人大学生（男子１１名、女子２２名）。英語専攻の学生が中心で、比較的英語のレベルも高く、外国語学習にある程度成功した学生の

31）荒井貴和（2004），「何が外国語学習者のやる気を失わせるか? 動機減退の原因とそれに対する学習者の反応に関する質的調査」，東洋学園大学紀要第１２号，pp.42-44.

dCollection @ jeju

集団と考えられる。なお、海外で長期間生活したことのある帰国子女は学習の条件が大きく異なる可能性が高いため対象から除外した。

２.調査方法

被験者にアンケート調査を行い、その中で「今まで受けたことのある語学（外国語）の授業で、あなたのやる気を失わせるようなことがありましたか？それはどんなことでしたか？また、あなたはそれに対してどのように対処しましたか？」という質問をして、回答を自由に記述するように指示した。

３.データの分析方法

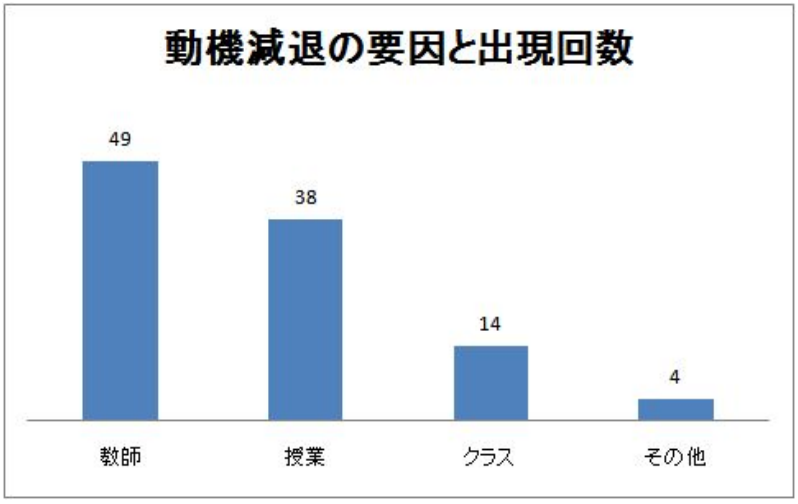
動機減退について被験者の記述を細分化し、出てきた内容によって項目を設定して分類し、出現回数を調べた。自由記述式で被験者によって記述の仕方が異なるため、動機減退に直接つながる体験のみに焦点をあてた。

項目はA教師，B授業，Cクラス，Dその他の４つである。

４.結果

被験者33名の内、2名は動機を減退させるような体験が特にないと答えたので、31名のデータに基づいて行った。動機減退の体験時期については小学校１，中学校５，高校８，大学２，その他（塾など）２であった（複数回答）。時期を特定しなかった被験者は18名いた。表６[32]はその結果である。

（表６：動機減退の要因と出現回数）

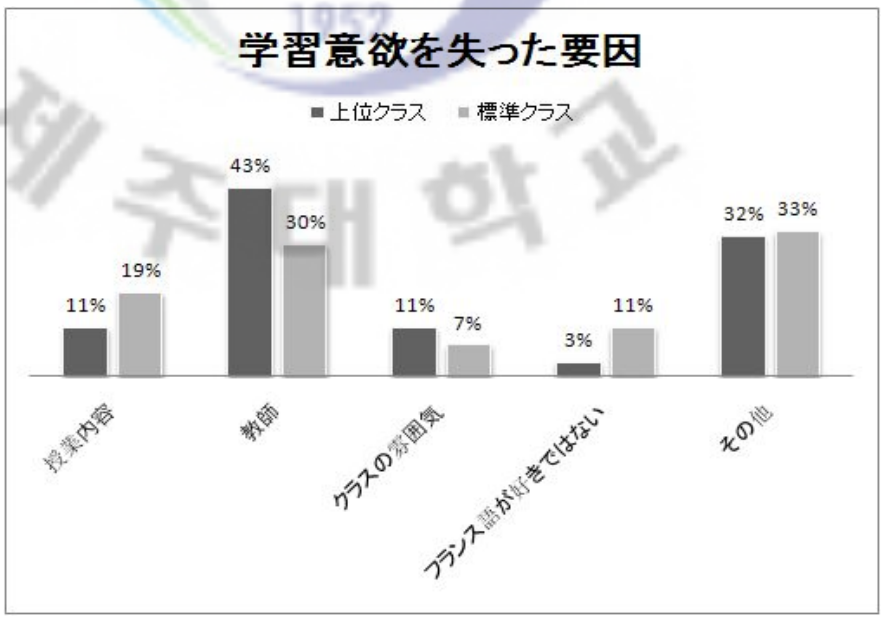


32）荒井貴和(2004)，ｐ43から作成

dCollection @ jeju

次は習熟度別、いわゆるレベル別のクラスではどういう調査結果になるのかを大石昌子の『フランス語学習者が学習意欲を失う要因を探るー習熟度別考察ー』を引用して見てみる[33]。被験者は大学生でフランス語を主専攻とする２年生で、習熟度別に上位クラス35名と標準クラス27名である。まず、「フランス語学習のやる気を失ったことがあるか」の質問に回答し、"ある"と回答した学習者はその要因として「授業」「教員」「クラスの雰囲気」「フランス語が好きではない」「その他」の５つの上位要因を設定、さらにその下位要因として５つを設定している。各設問には記述欄を設け、自由に記述できるようにしている。その結果「フランス語学習のやる気を失ったことがあるか」の質問に対しては上位クラスの８３％と標準クラスの９０％が"ある"と回答し、その要因は表７[34]のようになっている。

（表７：習熟度別クラスの学習意欲を失った要因）



要因で授業内容を選択した理由として上位クラス、標準クラスとも「単調、退屈」が最も多く、標準クラスでは「何をやっているのかわからない」という記述も目立った。教師を要因とした理由は「学生に対する接し方」「教え方」を挙げる割合が多く、記述では「きまぐれな授業」を指摘している。この結果から大石は言語を学ぼうとする肯定的な態度を持ち、その実現に向け努力を続けていたにも関わらず、何らかの理由でそれをくじかれ、学習意欲を減退させるとしている。注目すべきは大石の研

33）大石昌子(2008)，「フランス語学習者が学習意欲を失う要因を探るー習熟度別考察ー」，名古屋外国語大学外国語学部紀要第34号，pp.94-96.

34）大石昌子(2008)，ｐ95から作成

dCollection @ jeju

究では主専攻の学生を習熟度別に調査しており、もともと動機づけがある学生のなかで、しかも上位クラスの学習意欲を失った要因のトップが教師であることだ。大石はこれについて、上位クラスは比較的、授業において真面目に取り組むがゆえに、より教師の影響を受けるのではないかと推察されるとしている。

これら調査対象となった学生は、高等学校で第２外国語の日本語を勉強する生徒とは学習目的や動機づけは異なる。しかし、逆に動機づけが高く語学を真面目に勉強している学習者であっても何らの要因で学習意欲が低下することがあり、その要因のひとつに教師の影響があるとし、教師の態度と学習意欲のつながりを述べている。

dCollection @ jeju

Ⅴ　教師の役割

5-1学習意欲が低下していると思われる状態

生徒の行動が教師が求めている方向でない場合に教師は教師中心的に見て、やる気がないと言うが、学習意欲が低下している状態というのは、意欲（内部）のことなので、低下しているかどうかは判断しづらい。しかし心は表に出るという言葉にもあるように教師側（外部）から見て、学習意欲が低い状態とはどういう行動をしている状態なのかを、いくつかあげてみる。

＊教科書を出していない。　＊違うページを開いている。
＊筆記用具を持っていない。ノートや教科書に書かない。
＊他の教科の参考書や教科書を出している。他の教科の勉強をしている。
＊日本語には関係しているが、授業とは関係がないことをしている。
＊目を閉じている。　＊イヤホーンで何かを聞いている。
＊声を出して発音練習をしない。　＊友だちと雑談をする。
＊簡単な問いにも答えられない。

これらは「うるさく騒ぐ」「遅刻をしてくる」「勝手な行動をとる」などいわゆる授業を妨害する問題行動は含めていない。

5-2　学習意欲が低下していることに対する教師の行動

上のような状態の生徒が隣の席にいたり、友だちがそのような行動をとっていて、教師からは何の注意も受けない場合や教師が黙認している場合、それを見ている生徒はどういう行動をとるだろうか。友だちがしている行動が楽だと考えたり、他の教科の勉強の方が大切だと考えたりすれば、当然友だちと同じ行動をとったり、また教師の質問に答えられずに叱咤されたときには教師を回避する行動をとるだろう。このよ

dCollection @ jeju

うなことを授業中に生徒にされて、何も注意しない教師や黙認している教師はいないのではないかと思うかもしれないが、実はそうではない場合も少なくない。表８は教師から見て学習意欲がないと思われる生徒の行動に対する教師の対応である。

（表８：生徒の行動に対する教師の対応）

生徒の行動	教師の対応
＊教科書を出していない。 ＊違うページを開いている。 ＊筆記用具を持っていない。ノートや教科書に書かない。	＊机間巡視を行っていなかったり教壇の位置から動かず授業をしている場合は気がつかない場合もある。 ＊気にしない教師もいるだろう。
＊他の教科の参考書や教科書を出している。他の教科の勉強をしている。 ＊日本語に関係はしているが授業とは関係がないことをしている。	＊生徒や保護者からの要望で大学入試科目の勉強を最優先に、と言われ仕方なく認めている。 ＊教師自ら許可を与えている。
＊目を閉じている。 ＊イヤホーンで何かを聞いている。	＊授業を邪魔されるよりましだろうと思って、そのまま放置している。
＊声を出して発音練習をしない。	＊他の生徒が発音練習しているから、数人が発音練習しないのは、そのままにしている。 ＊教師も教科書を見て、発音しているので、生徒の誰が声を出していないのかわからない。(机間巡視をしない)
＊友だちと雑談をしている。	＊一応注意はするが、徹底しきれていない。（一応注意するというのは、顔に笑みを浮かべながら注意をしたり、冗談っぽく注意したりすること。この場合、生徒は本気で注意されているとは思っていない。）
＊簡単な問いにも答えられない。	＊そんなこともわからないのか、としかったり、あきれかえったりする。 ＊あきらめている。

dCollection @ jeju

表８のような教師のケースも特別ではないだろう。日本語の勉強を楽しく思っている生徒以外は、教師の態度や指導力を見て、「じゃあ俺も好きなことしようかな」とか「寝ようかな」とか、「楽(らく)しよう」とか考えて、同じような行動をとることは大いに有り得ることだ。学習意欲の低下も伝染することがあり、最初は一人二人の少数の生徒がとり始めた行動だったのが、教師の不注意で教室中に学習意欲低下のウィルスが伝染し始めたのではないだろうか。そうした場合、生徒の学習意欲の低下は教師の姿勢にも原因があると考えるのが普通だろう。

では、なぜ教師は生徒の学習意欲がないと思われる行動に対し、表８のような対応をするのか。それはそれらの行動の一部に生徒が教師を試すある心理的作戦をしかけているからである。次は心理的作戦を考えるために小峰直史の『教育困難校における教師のアイデンティティに関する研究』を参考にする[35]。小峰直史は教師と生徒の対面的状況を表にしている(表９)[36]。これは教育困難校のケースであるが、教育困難校以外においても同様のケースが見られるため、その中で教育困難校以外でも共通している部分を抜粋して見てみる。

（表９：生徒と教師の駆け引き）

	教　　師	生　　徒
①制空権の争奪	出欠席判定権の行使	揺さぶり
②交渉	共有可能なルールの策定	比較法
③折り合い	譲歩	譲歩の要求

小峰直史は教育困難校を対象に書いているので、その例を一般の学校の例に置き換えてみる。表９内にある①制空権の争奪は、卒業や進学に必要な出欠席をめぐる駆け引きのことであるが、これは一般の学校においても見られることである。特に遅刻の場合は何分何秒までが遅刻であるのか、トイレに行っていた場合や他の先生から呼ばれていた場合や、シビアな場合は教室にはいるが、座席につかなかった場合などいろいろなケースが考えられる。そこで生徒はこの教師はどういう教師なのか、いろいろなケースを次々と試してくる。一度でも認められた場合は○○君の場合は遅刻になら

35）小峰直史（2007），「教育困難校における教師のアイデンティティに関する研究」，関東教育学会紀要第27号，pp.30-31.
36）小峰直史（2007），ｐ30から作成

dCollection @ jeju

なかったのにと、まるでメモでもしているかのように覚え、それを利用してくる。そして、②では教師側からも生徒側からも授業中のルールを決めようとするが、教師側の一方的なルールは生徒側はのまない。他の教科の場合と比較したり、昨年のケースと比較して生徒側に有利なルールを求めてくる。それが③である。生徒は自分たちが置かれている状況、例えば大学入試を控えているから日本語の授業中でありながらも、受験科目の自習を認めてくれだとか、日本語の勉強であっても授業の日本語のレベルが簡単すぎて合わないから日本語能力試験の勉強をさせてくれとか。それが特例だと言っても時間の経過とともに周囲に波及し"ゆるゆる"になっていくことも珍しくない。生徒側は教師を試し、どこまでなら可能なのかギリギリのところまで迫ってくるのである。譲歩しすぎた教師はそのあげく自分の陣地や領海、制空権すなわち授業の主導権を失い、一人で授業している状況になったり、生徒をコントロールできなくなるのである。こういう生徒の声を聞いたことがある。何らかの理由で数学の宿題をしていなかった生徒が、３時間目は日本語の授業だからそのときにしようと話していた。教師の対応次第で生徒の行動や考え方も変化していき、最後には日本語の授業で内職をすることについて罪悪感もなくなっていくのだ。

5-3　教師の力

語学学習はクラスメートとの会話練習や教師との会話が多くなるため雰囲気作りにも気をつけなければならない。クラスメイトや教師との関係も学習意欲に影響してくるため発言しやすい環境をつくり授業を進めていくなど、クラスをコントロールできる教師の役目が非常に重要になってくる。これまでにも書いたが、生徒の学習意欲が低下している要因には教師が深く関係している。生徒やクラスをコントロールできるかどうかは、教師の力であるが、それを生徒側から見れば教師に勢力を感じるかどうかになる。勢力を感じているからこそ、いうことを聞いたり、指示に従ったりできるのだ。逆に勢力を感じない場合は、いわゆる「なめられた状態」になり、生徒は教師の指示に従わず、うそや言い訳をいったり、時には反抗したり、好き勝手しながら授業を受けるのだ。

dCollection @ jeju

生徒は教師をどう見ているのか。河村茂雄を引用すると[37]子どもたちは教師に何らかの勢力を感じ、その勢力に従っていると考えることができるとし、それを勢力資源[38]とよんでいる。教師の勢力資源は昔と現代の子どもとでは大きく変わってきているものの、次の６つの種類があるという。

①準拠性：教師に対する好意や尊敬の念、信頼感、ある種のあこがれなど、教師の内面的な人間的魅力にもとづく。

②親近・受容性：教師に対する親近感や自分を受け入れてくれるという被受容感など、教師の内面的な魅力にもとづく。

③熟練性：教師の専門性による教え方のうまさ、熱心さなど、教師の教育技術の高さと熱意にもとづく。

④明朗性：教師の性格上の明るさ、かかわることで楽しい気分になることにもとづく。

⑤正当性：「教師」「先生」という役割や社会的な地位にもとづく。

⑥罰・強制性：教師の指示に従わないと罰せられたり、成績に響くので、それを避けるために教師の指導に従うことにもとづく。

工藤・楠木は河村を引用し[39]以下のように述べている。

中学生は前述の６つの勢力資源を「教師の人間的魅力」「教師の役割の魅力」「罰・強制性」の３つに統合して教師を捉える傾向がある（図３）[40]。この時期の生徒は、授業での教え方がうまくかつ熱心な教師を教師らしいと感じ、自分たちのいうことを何でも認めてくれる物分かりのいい教師であっても、「教師役割の魅力」が感じられない教師であれば、心から信頼しないのである。そのため場合によっては、友人関係の相談はA先生、勉強の相談はB先生というように、生徒が教師を選択するようなことも生じる。

37）河村茂雄（2002），『教師のためのソーシャルスキル』，誠信書房，ｐｐ.27-31.

38）児童・生徒・学生が教師に感じている「従う理由」。　河村茂雄は子どもたちが教師に感じる勢力を心理学用語から資源勢力と紹介し、子どもたちはこの勢力に従っているとした。

39)工藤多恵・楠木理香（2004），「外国語学習に対する動機づけを促すために」，立命館高等教育研究第４号，pp27-28.

40）工藤多恵・楠木理香（2004），ｐ27をもとに作成

dCollection @ jeju

(図３：中学生が捉える教師の勢力資源)

高校生の勢力資源の捉え方は、中学生の統合の仕方と同じであるが、中学生と高校生の決定的な違いが'正当性'の勢力資源だ。中学生は「教師役割の魅力」の中に'正当性'の勢力資源が含まれているのに対して高校生は「教師の人間的魅力」の中に含まれている(図４)[41]。つまり中学生は授業の教え方がうまく、熱心な先生を見て「教師らしさ」を感じるが、高校生はひとりの人間として尊敬できるか、親しみがもてるか、ということを重視するのである。また、高校生が捉える「教師役割の魅力」は熟練性と明朗性の相関が高い。わかりやすく言えば難しい内容を堅苦しくそのまま教える教師に対して高校生は魅力を感じず、授業内容を興味深くアレンジし、時には自分の人生観を折り混ぜながら語ってくれる教師の授業にこそのってくれると考えられるとしている。

(図４：高校生が捉える教師の勢力資源)

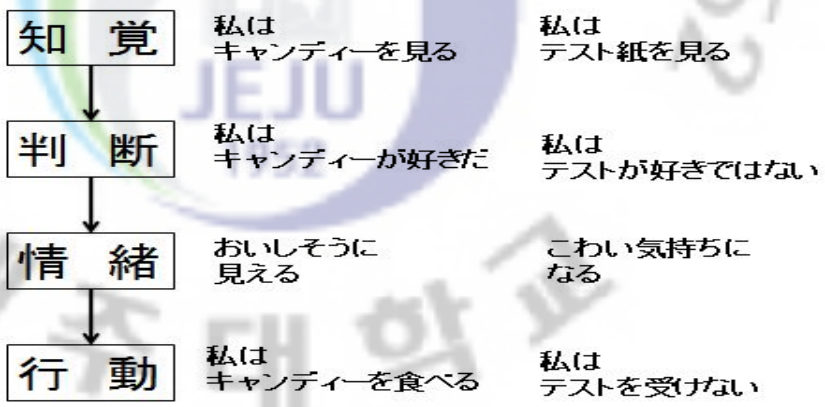
41) 工藤多恵・楠木理香 (2004), 前掲論文, p28をもとに作成

dCollection @ jeju

5-4　教師の態度

教師の態度と生徒の学習意欲は大きな関連を持っている。R.J.ウラッドコースキーを引用すると[42]、態度は人の行動に長期間にわたって影響を与える押しボタンのようなもので、心理学的には、態度は知覚と判断の結合であり、それが行動に影響を与える情緒としばしば結びつくとあり、図５[43]で態度のプロセスを示している。

（図５：態度のプロセス）



さらにR.J.ウラッドコースキーは[44]生徒が教師を好きになったり、教師を公平で暖かみがあり、自分を大切にしている人だと感じるならば、生徒の学習への動機づけは高まるに違いない。それに加えて、条件がそろえば生徒は教師に対して同一化し、教師の行動やスタイルを模倣し、取り入れていくだろう。しかし反対に生徒が教師を嫌い、教師から敵意や恐怖、非人間性を感じとるならば、学習しようとする生徒の動機づけがひどく損なわれることは間違いない。そのような場合、教師は生徒と学習教材の間の文字通りの障害物になってしまうと述べている。そして、山口正二も[45]「教師との心理的距離が教科の好き嫌い決めていることもある」と述べている。

また、レイフ・エスキスによると子どもたちは厳しい教師は受け入れても、不公平な教師は毛嫌いする。罰は犯した罪に見合ったものでなければならないと述べてい

42）R.J.ウラッドコースキー（1991），p 29
43）R.J.ウラッドコースキー（1991），p 29をもとに作成
44）R.J.ウラッドコースキー（1991），p 31
45）山口正二（1995），『生徒の教師認知における心理距離に関する実証的研究』，風間書房，p 106

dCollection @ jeju

る。例えば、日本語の宿題をしてこなかったから、放課後掃除をさせる。これには日本語の宿題と掃除との関連性がみられないといっている。教師が与えた罰に生徒が不満を持ち、反発的な態度になるのはこういったことが根本にあるのではないだろうか。では、どういう罰ならばいいのか。レイフ・エスキスによるいい罰の例を引用すると[46]、子どもが理科の実験中に不作法なことをしたら彼はこういうそうだ。「ジェイソン、きみは器具を正しく扱えないようだ。グループの外に立っていてくれないか。実験を見てもいいが、参加はできない。明日チャンスをあげるよ。」野球の試合中文句ばかり言ってきちんとプレイできない子どもはベンチに座っているよう命じられる。それは論理的である。そして子どもが正しくプレイできるようになったら、必ずグランドに戻れるようにする。教師が与えた納得できない罰が発端でその教師が嫌になり、そしてその教師が担当する教科も含めて嫌いになりモチベーションを下げることもある。

さらに、レイフ・エスキスを引用すると[47]「教師は子どもたちから見られていることを忘れないでもらいたい。」「あなたは子どもになってもらいたい人物にならなければいけない。」と教師は生徒の手本になると述べている。ある教師がしょっちゅう遅刻をし、その教師はそれに気がつきもしないが、クラスの子どもから信頼を失ったそうだ。しょっちゅう遅刻をすることは、その教師にとって子どもは大切ではないと告げたと同じものなのだと。そんな教師が言うことをまじめに聞こうとする子どもは何人いるだろうか。教師の一日には手本になれる瞬間が何千回もあるがチャンスをつかめることは数回しかないと締めくくっている。

5-5　学ぶ意欲を失わせる教師

教師と学習意欲との関係については、小島宏が"学ぶ意欲を失わせる教師として"次のように書いている[48]。

○できる子にひいきをする。

46) レイフ・エスキス (2007), 『子どもにいちばん教えたいこと』, 草思社, p26
47) レイフ・エスキス (2007), pp.27-28
48) 小島宏(2006), p147

dCollection @ jeju

○できる子ばかり当ててどんどん進む。

○「こんなことができないのか。」とけなす。

○「こんな学級ははじめてだ。」という。

○間違えるとこわい表情をする。

○先生だって勉強（準備）していない。

これら小島が言っていることもこれまで述べたことに当てはまる。特に公平性がない教師や他との比較、できないことに対する叱咤は、どの教育機関においても学習者の学習意欲を失わせる。小島は最後に「学ぶ意欲を失わせる教師」の言動を見ると、どれも現実的にあり得ることばかりである。もしかしたら自分も無意識にうちにそのようなことをしているのではないかと、これまでを振り返ることが重要である。そして言動を改善し、学ぶ意欲を高めるために教師自身がモデルになるよう心がけたいものであると述べている。

5-6　教師との距離

楠木理香・工藤多恵は『外国語学習の動機に関わる要因』ので日本の関西の私立大学で外国語を必修受講している１年生２３名（日本人の英語受講者１２名、留学生の日本語受講者１１名）を対象に面接式で予備調査をしている。その予備調査の結果から授業に対するやる気に影響を及ぼす要因として挙げられたものの中から抜粋引用する[49)]。

①教師が学生の名前を覚えているか、または覚えようとしているかどうか。

ほとんどの学生が面接の中で自主的に発言したもので、全面接中反対したものは１人もいなかった。理由としては「覚えてもらっているとうれしいし、自分のことをみてもらっているのでがんばろうという気になる」という意見が多く、中には「名前を覚えられていると緊張して、勉強しないといけないという義務感がつよくなるから」というのもあった。

---

49)楠木理香・工藤多恵(2006), 「外国語学習の動機に関わる要因」, 立命館大学法学会, 山口幸二先生退職記念集, pp.145-146.

dCollection @ jeju

大学生の場合は高校生に比べて教師との接点が少ないと思われるため、名前を覚えてくれるかに関して大半の学生が同じこと思っているようだ。これは高校でも同じであろう。名前を覚えてくれるかどうかは、生徒に対して関心を持っているかどうかと生徒は判断するだろう。指導される際に名前を呼ばれるか、"おい、そこの〇〇"と特徴や席の位置で呼ばれるのとでは、当然生徒の意識は変わってくるだろう。

②教師からのフィードバックやメール連絡などがあるか。

授業で課される課題や宿題などが返却される作文などが返却される際に、丁寧なコメント、特に自分個人についてのコメントがあるのは大きなやる気につながると答えた学生が多かった。

これも自分が生徒の立場だった場合を考えると、提出した宿題に日付とサインだけが書かれているよりも、何かひとことコメントがあったほうが、もらったときにうれしいし、やり甲斐も感じるだろうから、次に宿題を提出する際にもより一層がんばって取り組めるような気がするのは理解できる。

③教師と勉強以外の話ができる、またはしたいと思うか。

「授業中、あるいは授業以外で、勉強以外の話をしてくれる先生、あるいはしたいと思う先生の授業は興味も持てるし、やる気が出る」という意見が出た。具体的には教師の私生活、大学時代、留学経験、外国語学習経験などという話が出た。つまり、自分がどんな人物で、今何を考えているのかなどを相手に伝える自己開示も必要だということである。それについて山口正二[50]は「学校教育の実践の場において、生徒と教師のよりよい人間関係を樹立するために、教師の自己開示特性は重要な要因となっている」と述べている。

5-7　教科の枠を超えた指導力

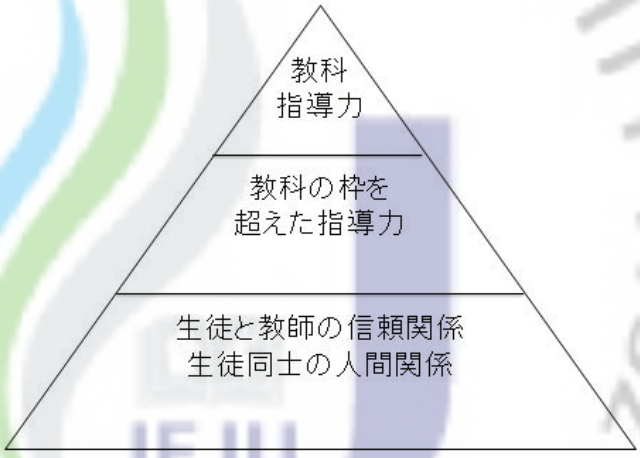
上に書いたことに関連するが、生徒の学習意欲を低下させないためには教科以外の指導力が必要となってくる。そのことについて英語教師田尻悟郎の挑戦として田尻氏の英語実践教育に関することを大津由紀雄・柳瀬陽介が書いたものを引用し[51]考えて

50)山口正二（1995），p 143.

dCollection @ jeju

みる。田尻氏は教師の資質・力量について図６[52]を用いて説明することがよくある。

（図６：教師の資質・力量）



田尻氏によれば、教科内容の深い理解に基づく教科指導は、教師の力量の頂上の一部に過ぎない。すなわち、教育の現場では、人間理解に基づく生徒指導力が第一に重要で、その結果生まれる教師と生徒の信頼関係と生徒同士の人間関係が授業の根底を支える。次に全教科共通の指導する技術「教科の枠を超えた指導力」が位置する。教科教育内容理解に基づく教科指導能力は、それらの下層の力がしっかりしてこそ活きると考えている。

一段階は、生徒の心を理解し生徒からも信頼できる教師であるという、生徒と教師の信頼関係が構築できていること。次は一段階の基礎の上に教師としての全般的な指導力、統率力で生徒を引っ張っていく二段階。そして教科指導はその上にしか存在しない。生徒の状態を理解せず、生徒と教師との良好な人間関係、信頼関係もない状態、また教師としての指導力、統率力がないところで、いきなり教科指導を行うことはできないということである。

51)大津由紀雄・柳瀬陽介(2010), 『英語教師田尻悟郎の挑戦生徒の心に火をつける』, 教育出版, p 247
52) 大津由紀雄・柳瀬陽介(2010), p247から作成

dCollection @ jeju

Ⅵ　おわりに

今回、高等学校における日本語の学習意欲が低下するいくつかの要因について考えてみた。その中でやはり大きいのが、大学入試との関係であるが、これについては日本語を勉強したから希望する大学に入学できなかったとか、日本語のせいで他の教科の成績が下がったということはないであろうにも関わらず、あまりにも大きく飛躍した考え方である。実際に生徒がそう考えて不安になり、日本語の学習意欲が低下することがあった場合は、教師や学校側がその不安を取り除いてあげるのが、本来の役目だが、それとは逆に、教師や学校側までもが生徒の考えに同調しているように思える。或は教師や学校側から生徒に日本語の勉強は"ほどほどに"という風潮もあるように思えてきた。

生徒側からの「教科書が難しい」「授業がわからない」などの理由で学習意欲が低下していくのは事実だろう。実際、授業では教科書を使用するが、「教科書を教える」と「教科書で教える」とでは大きな違いがある。また、「試験が難しい」「がんばって勉強してもいい点数がとれない」などの要因に対しては日本語教育だけが持っている問題でなく高等学校の教育全体の問題として考える必要がある。

教師の役割のひとつに知識、学術の伝達がある。今の時代は大学入試や就職資格試験のために、教師の役割のひとつだった部分が、教師の役割の大部分を占めている。学校や保護者、他の教科の教師も大学入試のことに敏感になり、大学入試と関係がない日本語の授業を軽視するかのような風潮もあることも事実だ。さらに日本語を教えている教師がそのことに同調することもある。高校生の日本語の学習意欲が低下する要因は、教師が教師の役割の一部分だけに力を入れていることにあるのではないだろうか。教科指導を行うにはその下に２つの段階があると言った田尻悟郎の考えからも、まず一段階の生徒と教師の信頼関係の構築すなわちラポール(rapport)[53]形成と、教師の勢力資源にも目を向けるべきである。

動機づけから見る要因では、日本語は学校の規定で最初はしかたなく始めたものであっても親和動機づけを仲介とし内発的に動機づけが移行することがある。内発的に動機づけられた行動はそれ自体が報酬となるので、行動に対する負担はなくなり、一

53）お互いが信頼し合い、安心して感情の交流ができる関係が成立している状態。
『大辞林』三省堂．互いに親しい感情が通い合う状態。

dCollection @ jeju

年後に大学入試が控えていても、平行して取り組んでいくことができる。その仲介となる親和動機づけには周囲の人たちとの関わりが重要とされるため教師ももちろんこの関わりの一つとなり、学習者の自己決定力を高めるのに貢献していくのが望ましい姿ではないか。生徒の学習意欲を高めるのも教師であり、低下させる要因も教師ではないだろうか。

今後、選択科目は第２外国語を含めて多くの選択肢の中から興味が持てる科目が履修できるようになり、日本語に関心を持っている生徒が選択してくれるのはいいことである反面、日本語の授業時数が減り派遣教師が増えることも予想される。韓国でよく「우리 학교 선생님」という言葉を耳にする。もし、他校への派遣で1週間に１，２日間だけ派遣先の学校に行くことになった場合、生徒教師双方に「우리～」という意識が薄くなり、生徒とのラポール形成は難しくなるかも知れない。しかし、どちらの場合においても日本語を教える教師が、ただ単に日本語を教えるのではなく、生徒の「なぜ日本語を勉強するのか」の問いにしっかり向かい合って答えることができなければ、日本語の学習意欲は低下していくし、生徒をコントロールすることができる勢力資源がなければ、そのクラスの生徒は学習意欲を失っていくだろう。

dCollection @ jeju

参考文献

荒井貴和（2004）「何が外国語学習者のやる気を失わせるか?　−動機減退の原因とそれに対する学習者の反応に関する質的調査」　東洋学園大学紀要第１２号

大石昌子（2008）「フランス語学習者が学習意欲を失う要因を探るー習熟度別考察ー」名古屋外国語大学外国語学部紀要第34号

大津由紀雄・柳瀬陽介（2010）『英語教師田尻悟郎の挑戦生徒の心に火をつける』　教育出版

小島宏（2006）『学ぶ意欲を高める100の方法』　教育出版

河村茂雄（2002）『教師のためのソーシャルスキル』　誠信書房

北田萌子（2005）「個人のモチベーションをあげる方法」　大阪府立大学経済学部

楠木理香・工藤多恵（2006）「外国語学習の動機に関わる要因ーアンケート面接調査による一考察−」　立命館大学法学会　山口幸二先生退職記念集

工藤多恵・楠木理香（2004）「外国語学習に対する動機づけを促すために−外国語教師にできること− 」立命館高等教育研究第４号

小峰直史（2000）「教育困難校における教師のアイデンティティに関する研究」関東教育学会紀要第27号

武井一（2007）「高校時代になぜ第2外国語を学ぶのか−日比谷高等学校のハングル授業を中心として」東京都立日比谷高等学校

富田智博（2007）「外国語学習におけるモチベーションの重要性」岐阜大学教育学部

中谷素之（2007）『学ぶ意欲を育てる人間関係づくり−動機づけの教育心理学』金子書房

西澤俊幸（2005）「ハングルの授業はいつもちょっぴりドキドキ」2005年度　　読売教育賞

廣森友人（2005）「外国語学習者の動機づけを高める３つの要因：全体傾向と個人差の観点から」　大学英語教育学会紀要第41号

松下真治（2010）「高校中途退学と部活動加入との関連についての一考察」国立青少年教育振興機構研究紀要第10号

山口正二（1995）『生徒の教師認知における心理距離に関する実証的研究』風間書房

dCollection @ jeju

吉田国子（2009）「語学学習における動機づけに関する一考察」武蔵工業大学環境情報学部紀要第10号

R.J.ウラッドコースキー（1991）『やる気を引き出す授業』田研出版株式会社　新井邦二郎・鳥塚秀子・丹羽洋子共訳

レイフ・エスキス（2007）『子どもにいちばん教えたいこと』　草思社

資料及びインターネット文献

国際交流基金（2009）海外日本語教育機関調査

大辞林　三省堂

日本大百科全集　CD-ROM版小学館（1987）

文部科学省（2007）高等学校等における国際交流等の状況

제7차 고등학교 일본어 교육과정 해설

デジタル大辞泉，http://dictionary.goo.ne.jp/

東京大学野球部ホームページ　http://www.tokyo-bbc.net/

東京大学柔道部ホームページ　http://www.akamonjudo.com/

教科書

김숙자外3名(2002)『고등학교日本語Ⅰ』대한교과서

김효자外2名(2003)『고등학교日本語Ⅰ』지학사

안병곤外3名(2003)『고등학교日本語Ⅰ』성언당

유길동外3名(2002)『고등학교日本語Ⅰ』진명출판사

이현기外2名(2002)『고등학교日本語Ⅰ』진명출판사

장남호外2名(2003)『고등학교日本語Ⅰ』와이비엠시사

한미경外3名(2002)『고등학교日本語Ⅰ』블랙박스

박덕준外2名(2002)『고등학교中国语Ⅰ』正進出版社

dCollection @ jeju

<Abstract>

Analysis : Why high school students' motivation for learning Japanese is decreasing?

INOUE Koichi

Graduate School of Education, Jeju National University
Major in Japanese Language Education

Directed by Prof. Kim Sung-Bong

Most of teachers who have an experience teaching Japanese are feeling that students' desire is declined as times go by when they teach Japanese in high school.

As the results of considering factors in the high school where I am teaching Japanese for investigating it, one factor decreasing the studying desire of Japanese was that Japanese is not related to the subjects of the entrance examination as most of people think. But, the greatest factor is the atmosphere,「it's not good to study other than the subjects of the entrance examination」 「Study only the subjects of the entrance examination hard」 and 「It's not good to give high school students burdens except the entrance」in schools and homes, not the fact that Japanese is not related to the subjects of the entrance examination. The role of high school is to give studying process for entering university. But, although schools who emphasizes the subjects of the entrance examination excessively is like the entrance institutions, teachers teaching Japanese in school agree to it and students' studying desire is naturally decreased.

In case of the subjects of the entrance examination such as English or Math, it's difficult to decrease the studying desire of students whose goal is to enter university because of the external motivations. But, in case of

dCollection @ jeju

Japanese which is not a subject of the entrance examination, teachers always must make an effort to improve students' motivation and respond for the questions, why do they study Japanese in high schools? and is there any classes except for the subjects of the entrance examination? Teachers must study and improve 「textbooks are difficult」 「classes are not interesting」, etc. But, before it, they must establish the confident relationship with students and possess the leadership controlling students.

Also, for the factors students are feeling, 「examination is difficult」 「good grade cannot be obtained in spite of diligent studying」, etc, it's necessary to think about the problems of not only Japanese education but also high school's whole educaiton.

dCollection @ jeju